

ヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタル保險契約者カ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其保險金額カ保險金額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ保險契約ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條ノ四 保險契約ノ移轉ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

前項ノ認可申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表及ヒ前條ノ公告並ニ異議ニ關スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

主務官廳ハ前項ノ書類ノ外必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十條ノ五 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其移轉セントスル保險契約ト同種ノ保險契約ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條ノ六 生命保險ヲ目的トスル會社カ其保險契約ノ全部ヲ移轉スル場合ニ於テハ移轉契約ヲ以テ保險金額ヲ削減シ及ヒ將來ノ保險料ヲ減額スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

第二十條ノ七 前條ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ第二十條ノ二第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ

至ル時迄其財産ノ處分ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但會社ノ維持ニ必要ナル費用ニ付テハ此限ニ在ラス

保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ因リテ生シタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ其金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條ノ八 保險契約移轉ノ認可アリタルトキハ會社ハ遲滯ナク其旨ヲ公告スルコトヲ要ス移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキ亦同シ

第二十條ノ九 會社カ保險契約ノ移轉ヲ爲シタルトキハ移轉ヲ爲シタル會社ノ其保險契約ニ付キ有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ於テ之ヲ承繼ス移轉契約ヲ以テ移轉スヘキコトヲ定メタル財産ニ付キ亦同シ

第二十條ノ二第三項ノ決議ノ後ニ於テ移轉スヘキ保險契約ニ付キ爲シタル收支其他移轉スヘキ保險契約又ハ財産ニ付キ生シタル變更ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ歸ス

第二十條ノ十 會社カ其保險契約全部ノ移轉ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ解散ス
第二十條ノ十一 會社ハ解散ノ後ト雖三个月内ニ限り第二十條ノ二第三項ノ決議ヲ爲スコトヲ

得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス但保險契約ノ移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキハ此限ニ在ラス

第二十條ノ十二 第二十條ノ十ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議錄並ニ第二十條ノ三ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル保險契約者アルトキハ其者カ保險契約者總數ノ十分ノ一以下ニシテ其保險金額カ保險金總額ノ十分ノ一以下ナルコトヲ證スル書面及ヒ保險契約移轉ノ認可ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十二條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ決議ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十條ノ三第二項及ヒ第三項ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ保險契約者其他保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ有スル者ニモ對抗スルコトヲ得

第二十三條中「第七十七條」ヲ「第八十七條」ニ改ム

第二十五條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議

ヲ述ヘタル保險契約者アルトキハ其者カ保險契約者總數ノ十分ノ一以下ニシテ其保險金額カ保險金總額ノ十分ノ一以下ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十條第二項ニ左ノ一號ヲ加フ

七 一定ノ時期迄ニ會社カ成立セサルトキハ入社ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

第三十一條中「第六十三條」ノ下ニ「乃至第六十三條ノ四」ヲ加フ

第三十二條 第四十九條ノ二ノ規定ハ入社申込人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス

第三十四條第一項ニ左ノ二號ヲ加フ

四 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名

五 數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第三十五條 商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第四十四條、第四十四條ノ二、第四十四條ノ三第一項、第二項、第四十五條、第四十八條ノ二、第一百十九條、第一百三十三條、第三十八條、第四十二條ノ二及ヒ第四百二十二條ノ三ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第七十三條第一項ノ規定ハ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依ル選任ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十八條ノ二 社員ノ責任カ第三十七條第二號又ハ第三號ニ該當スル相互會社ニ在リテハ定
 款ヲ以テ保險金額ノ削減ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ要ス
 第四十一條ノ二 第二十條ノ二第一項乃至第三項及ヒ第二十條ノ四乃至第二十條ノ十二ノ規定
 ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第四十四條中「總會ノ目的」ヲ「會議ノ目的タル事項」ニ改ム

第四十五條中「第五百五十八條第一項」ヲ削リ「第六十三條」ノ下ニ「乃至第六十三條ノ四」ヲ
 加フ

第四十九條ノ二 商法第七十二條ノ二ノ規定ハ會社ノ社員ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用
 ス但保險關係ニ屬スル事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第五十三條 商法第六十四條第二項、第六十五條乃至第六十七條ノ二、第六十九條、
 第七十條、第七十四條第二項、第七十六條、第七十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ
 相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス

第五十五條 商法第六十四條第二項、第六十六條但書、第六十七條、第六十七條ノ二、

第七十七條、第七十九條乃至第八十四條、第八十五條第一項及ヒ第八十六條ノ規
 定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス

第七十三條第一項中「及ヒ合併ノ決議」ヲ「合併及ヒ保險契約移轉ノ決議」ニ改ム

第七十七條 削除

第七十八條中「一个月」ヲ「三个月」ニ改ム

第八十一條 削除

第八十二條 第四十四條、第五十條乃至第五十二條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條
 乃至第九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十七條、第九十九條、第五十七條、第五
 十九條、第六十三條乃至第六十三條ノ四、第六十四條第二項、第六十七條ノ二、第
 百七十條、第七十六條、第七十七條、第七十九條、第八十一條、第八十三條、第
 百八十四條、第八十五條第一項、第八十六條、第九十一條乃至第九十三條、第二
 百二十六條乃至第二百二十七條ノ二、第二百二十八條第一項、第二百三十條、第二
 百三十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條、第八十三條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合
 ニ之ヲ準用ス

第八十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フ會社ノ社員名簿ニハ之ヲ適用セス
第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲
ス支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ非訟事件手續法第七十三條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ
其變更ノ消滅ノ登記ニ付キ亦同シ

第八十八條ノ二 相互會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ非
訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス
相互會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第八十四條第二項
並非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定
ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十九條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三項、第三百三十五條ノ四、第三百三十八條
ノ三乃至第三百三十九條、第四百一十一條乃至第四百六十四條、第四百七十三條、第四百七十四條第二
項、第四百七十五條乃至第四百七十八條、第四百八十八條、第四百九十三條第一項、第二項及ヒ第百
九十五條ノ二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ受ケスシテ保險事業ヲ營ム者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 保險會社ノ取締役、監查役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過
料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

- 一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
- 二 生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ
- 三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
- 四 主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
- 五 正當ノ理由ナクシテ第九十三條ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメヌ又ハ其
謄本若クハ抄本ヲ交付セザリシトキ
- 六 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲ササルトキ
- 七 第二十條ノ二、第二十條ノ三又ハ第二十條ノ五ノ規定ニ違反シテ保險契約ノ移轉ヲ爲シ
又ハ保險契約ヲ爲シタルトキ
- 八 第二十條ノ七ノ規定ニ違反シテ財産ノ處分ヲ爲シ若クハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲シ又
ハ支拂ヲ爲シタルトキ

九 第二十二條ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ

十 第九十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

第九十八條ノ二 株式會社ノ取締役、監査役又ハ清算人カ本法ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ忘
リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第九十八條ノ三 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下
ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ社員ノ數又ハ基金醸出ノ
引受ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ

二 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基金ヲ償却シ其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金ヲ分配シタルト
キ

三 會社ノ專業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財産ヲ處分シタルトキ

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス

第九十九條中「過料ニ處セラル」ヲ「過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラ
ス」ニ改メ同條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第五號ヲ第六號トス

五 正當ノ理由ナクシテ第五十條第二項ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメサル
トキ

第百條中「過料ニ處セラル」ヲ「過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス」ニ
改メ第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ改メ以下順次繰上ケ同條ニ左ノ二號ヲ加フ

五 清算ノ結了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

六 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第八十條若クハ定款ノ規定ニ違反
シテ殘餘財産ヲ分配シタルトキ

第百條ノ二 明治三十三年法律第五十二號ハ本法ノ犯罪ニ之ヲ準用ス

第百五條中「裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得」ヲ「主務
官廳ハ其事業ヲ禁止スルコトヲ得」ニ、第二項ヲ左ノ如ク改ム

保險會社カ違法ニ事業ヲ禁止セラレタリトスルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百五條ノ二 保險會社カ其事業ヲ禁止セラレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第十三條ノ二第一項、第三項、第十三條ノ三、第七十八條、第八十七條及ヒ第九十八條第六
號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百八條中「第十三條」ヲ「第十三條ノ三」ニ改ム

第百十一條中「及ヒ第九十三條」ヲ「乃至第九十六條」ニ改ム

第百十二條中「第七十七條」ヲ「第二十五條」ニ改ム

第百十二條ノ二、第二十條ノ二乃至第二十條ノ十二、第二十二條及ヒ第二十五條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其保險契約ヲ合資會社若クハ株式會社ニ移轉シ又ハ株式會社ト合併スル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約移轉ノ決議ハ舊商法第百五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十二條ノ三、第二十二條、第二十五條、第七十三條第二項、商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項、第八十三條ノ三及ヒ非訟事件手續法第二百一條第一項、第二項ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲ス場合ニ準用ス

附則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規

定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條 本法施行前ニ設立シタル會社ニシテ命令ヲ以テ第五條第二號又ハ第五號ニ掲ケタル書類ニ定ムヘキコトヲ規定スル事項ニ付キ認可ヲ受ケサルモノハ本法施行後六个月内ニ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ認可ヲ受ケタル時現ニ利用スル財産ニ付テハ其利用方法ヲ變更セサル限り認可ヲ受ケタル方法ニ依ラサルコトヲ得

第四條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其合併ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五條 第三十八條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル會社ニハ之ヲ適用セス

第六條 明治四十四年法律第七十三號附則第四條、第五條、第七條、第九條乃至第十三條、第二十條及ヒ第二十一條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第七條 本法施行前ニ從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖其罰則ヲ適用ス

第八條 裁判所カ本法施行前ニ受理シタル清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ニ付テハ仍從前

ノ規定ニ依ル

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長男爵辻新次 散會ヲ命ス

散會 午後零時一分

第二回 明治四十五年三月十九日

出席委員

委員長 男爵 辻 新次 副委員長男爵 武井守正

委員 子爵 一柳末德 同 男爵 若王子文健

同 室田義文 同 伊藤由太郎

出席政府委員

法制局長官 岡野敬次郎

司法省民事局長 齋藤十一郎

農商務省商務局長 大久保利武

農商務省參事官 織田一

開會 午前十時二十一分

○委員長男爵辻新次 開會ヲ宣告ス

○委員長男爵辻新次 散會ヲ命ス

散會 午後零時五分

第三回 明治四十五年三月二十二日

出席委員

委員長 男爵 辻 新次 副委員長男爵 武井守正

委員 伯爵 柳澤保惠 同 子爵 加納久宜

同 子爵 一柳末德 同 男爵 若王子文健

同 室田義文 同 伊藤由太郎

出席委員外議員

男爵 田健治郎

出席國務大臣

農商務大臣 男爵 牧野伸顯

出席政府委員

| | |
|----------|-------|
| 法制局長官 | 岡野敬次郎 |
| 司法省民事局長 | 齋藤十一郎 |
| 農商務次官 | 押川則吉 |
| 農商務省商務局長 | 大久保利武 |
| 農商務省參事官 | 織田一 |

開會 午後一時十八分

○委員長男爵辻新次 開會ヲ宣告ス

○委員長男爵辻新次 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十六分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

○保險業法中改正法律案

○右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

| | |
|-----------------|--------------|
| 男爵 辻 新次 | 委員長 男爵 辻 新次印 |
| 副委員長 男爵 武井 守 正印 | 貴族院議長公爵德川家達殿 |

煙草專賣法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月十六日議長ノ指名ヲ以テ煙草專賣法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 伯爵 | 奧平昌恭 |
| 子爵 | 唐橋在正 |
| 子爵 | 山口弘達 |
| 子爵 | 稻垣太祥 |
| 男爵 | 中川興長 |
| 男爵 | 岩倉道俱 |
| | 仁尾惟茂 |
| | 佐藤源藏 |
| | 美馬儀一郎 |

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | |
|------|----|------|
| 委員長 | 伯爵 | 奧平昌恭 |
| 副委員長 | | 仁尾惟茂 |

第一回 明治四十五年三月十八日

會議

| | | | | | |
|------|----|-------|------|------|------|
| 出席委員 | | | | | |
| 委員長 | 伯爵 | 奧平昌恭 | 副委員長 | 仁尾惟茂 | |
| 委員 | 子爵 | 唐橋在正 | 同 | 子爵 | 山口弘達 |
| 同 | 子爵 | 稻垣太祥 | 同 | 男爵 | 中川興長 |
| 同 | 男爵 | 岩倉道俱 | 同 | | 佐藤源藏 |
| 同 | | 美馬儀一郎 | | | |

出席政府委員

專賣局長官

濱口雄幸

開會 午前十一時二十分

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

(参照)

煙草專賣法中改正法律案

煙草專賣法中左ノ通改正ス

第十一條中「量目」ノ下「又ハ葉數」ヲ削ル

第十二條第一項及第三項中「量目」ノ下「又ハ葉數」ヲ削ル

第十七條中「量目」ノ下「又ハ葉數」ヲ削ル

○委員伯爵奧平昌恭 本案ニ付政府委員ノ意見ヲ問フ

○政府委員濱口雄幸 本案ハ衆議院ノ提出ニ係ル所ニシテ先ツ其ノ沿革ヲ述フルノ必要アリ抑本案ト同一ノ法律案ハ既ニ第二十三回帝國議會ニ於テ衆議院ニ發議セラレタリシカ當時衆議院ノ委員會並本會議ニ於テハ條件的ニ之ヲ否決シタリ而シテ其ノ所謂條件トハ該法律案ノ目的ハ現行煙草專賣法ノ所謂葉數査定ノ方法ハ煙草耕作者ノ勞費ヲ過大ナラシムルモノナルヲ以テ之ヲ廢止セムトスルニ在ルモ葉數査定ハ一面ニ於テハ犯則防止ノ上ニ最必要ナル取締方法ナルヲ以テ之ヲ削除スルハ絶對ニ不可ナリ然レトモ耕作者人ニシテ善良ナラムカ到底犯則ヲ敢テスルカ如

キ虞ナキヲ以テ斯ノ如キ耕作人ニ對シテハ成ルヘク葉數査定ノ方法ニ依ラスシテ量目査定ノ方法ヲ施行スルヲ努ムヘキ旨ヲ政府ニ交渉スト謂フニ在リタリ政府ニ於テハ委員會並本會議ニ於テ將來上述ノ方針ヲ以テ調査ヲ進行スヘキ旨ヲ明言シ議會ノ閉會後直ニ以上ニ言明セシ旨趣ヲ實現スルノ目的ヲ以テ種種ナル調査ヲ遂ケ善良ナル耕作人ニ對シテハ葉數査定ノ方法ヲ廢シ單ニ量目査定ノ方法ノミヲ施行シタリ從テ去ル明治四十年年度ヨリ葉數査定ニ依ラサル耕作人ノ數ハ年年ニ増加シ段別ニテ之ヲ表示スレハ左ノ如クナレリ

明治四十年年度 五百二十九町步

明治四十一年度 二千町步

明治四十二年度 三千三百町步

明治四十三年度 五千三百町步

明治四十四年度 八千八町步

以上ノ事實ニ徴スレハ葉數査定ノ方法ハ耕作者ノ美風ヲ維持シ善良ナル耕作人ヲ養成スルニ於テ必要闕クヘカラサル要件ナルコト明ナリ而シテ苟モ煙草專賣制度ノ存在スル以上ハ量目査定ト葉數査定トハ取締上寔ニ闕クヘカラサル必要ノ方法ナルカ故ニ此ノ二者ヲ共存セシメ其ノ

適用ハ一ニ行政取締ノ便宜ニ基キ行政官ヲシテ取捨セシムルヲ以テ最良好ナル方策ナリト信ス其ノ他本案ノ利害ハ煙草ノ査定上孰レノ方法ニ依ラハ最正確ナルヲ得ヘキカニ從テ判定セサルヘカラス而シテ政府カ多年實驗シタル所ニ依レハ葉數査定ハ量目査定ニ比シテ理論上並實驗上正確ナルコトヲ認メタリ今同一官吏カ同一ノ場所ニ於テ量目査定ト葉數査定トノ比較調査ヲ爲セシ成績ヲ舉ケレハ一割未滿誤差ヲ生セシハ葉數査定ニ三千三百九十二回ニシテ量目査定ニ千七百七十七回アリ一割以上二割未滿ノ誤差ヲ生セシハ葉數査定ニ於テ百四十回ナリシニ量目査定ニ於テ千九十七回ヲ見又二割以上三割未滿ノ誤差ハ葉數査定ニ在リテハ一回ニ過キサリシモ量目査定ニ在リテハ四百八十八回ヲ算シタリ由是觀之葉數査定ノ容易ニ廢スヘカラサルヲ知ルヘシ最後ニ煙草專賣法犯則狀態ニ付テ一言セムニ最近ノ調査ニ依レハ犯則者ハ年年増加スルノ傾向アリ而シテ犯則ノ數ハ平均一箇年一萬件罰金追徵金二十萬圓ニ上レリ故ニ此ノ際ニ當リ本案ヲ成立セシメ葉數査定ノ方法ヲ廢スルカ如キハ寔ニ專賣制度ノ基礎ヲ危ウシ犯則ヲ醸成セシムルノ虞アリ而シテ本案ハ其ノ端緒ヲ議院ニ呈出セラレタル請願ニ發シタルモノニシテ上述ノ如ク重要ノ理由アルモノトモ認ムルヲ得ス故ニ政府ハ飽迄本案ニ反對ヲ表ス

○委員子爵稻垣太祥 犯則狀態ノ種類ニ付一應説明アラムコトヲ望ム

○政府委員濱口雄幸 犯則狀態ノ種類左ノ如シ

一 密賣、二 消費、三 掩蔽、四 所有者不明ノ煙草ヲ有スル者、五 密製造等ナリ

○委員子爵稻垣太祥 本案提出ノ趣旨ハ哀願的ニ煙草耕作人ノ困難ヲ救ハムトスルニ在ルカ如シ
換言スレハ葉數査定ハ細民ノ勞費ヲ過大ナラシムルヲ以テ之ヲ輕減セムトスルニ在ルモノノ如
シ政府ハ之ニ對シ適當ノ方法ヲ講スルノ意ナキカ

○政府委員濱口雄幸 葉數査定ノ方法ハ細民ヲ苦シムトハ如何ナル意義ナルカヲ知ルニ苦シムト
雖惟フニ耕作人カ葉煙草ノ葉數ヲ數フルノ手數等ヲ指スニ在ルカ如シ果シテ然ラハ斯ノ如キハ
敢テ意トスルニ足ラサルナリ例ヘハ一包裝中ニハ葉煙草ノ種類並性質ニ依リ必一定量ノ葉煙草
ヲ包含スルモノナルカ故ニ敢テ一之カ枚數ヲ數フルノ煩ヲ見サルモ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得
ルノミナラス政府ハ收納ノ場合ニ於テモ量目ト葉數トヲ査定シ以テ賠償價格ヲ下附スルノ方法
ヲ取ルカ故ニ煙草耕作人ノ手數ヲ煩ハサスシテ正確ニ收納ヲ爲スコトヲ得ヘシ從テ現行法ノ規
定ハ耕作人ニノミ過大ノ勞費ヲ課スルモノニアラス

○委員佐藤源藏 犯則檢舉ニ關シテハ量目査定ト葉數査定トノ兩方法中孰レカ適當ナリヤ

○政府委員濱口雄幸 犯則檢舉ニ關シテハ葉數査定ノ方法ニ依ル方遙ニ容易ナリ之ニ反シ量目査

定ハ査定ノ方法不正確ナルヲ以テ犯則行ハレ易ク從テ檢舉モ困難ナリ元來犯則ハ量目査定葉數
査定ノ孰レノ方法ニ依ルモ絶對ニ之ヲ妨止スルコトヲ得スト雖量目査定ノミニ依ルトキハ寧犯
則ヲ助長スルノ傾アリ

○委員仁尾惟茂 煙草專賣法制定ノ際葉數査定ハ量目査定ニ比シテ幾分カ耕作人ノ手數ヲ増スノ
傾アルヲ以テ煙草賠償價格中ニ其ノ幾分ヲ見込ムヘシトノ見解ヲ有シ種種調査セシニ研究ノ結
果敢テ過大ニ耕作人ノ勞費ヲ増スモノニアラサルヲ知リ殊更ニ賠償價格中ニ之ヲ見込ムノ要ナ
シト決定セリ然レトモ其ノ際ノ調査ニ成レル數字上ノ割合ハ政府ニ保存セラレルモノト認ム此
ノ點ニ付一應説明アラムコトヲ望ム

○政府委員濱口雄幸 葉煙草專賣法ハ最初査定ニ關スル規定ヲ全然缺如セシヲ以テ實際上ノ取扱
ニ於テハ一ニ目方ヲ量ルノ方法ニ依リテ査定シタリキ然ルニ其ノ後明治三十四年ニ至リ政府ハ
同法改正ノ必要ヲ認メ耕作ノ區域、段別、査定方法等ヲ加ヘタリ而シテ現行煙草專賣法ハ査定
ノ方法ニ關シテハ此ノ主義ヲ踏襲シ葉數査定ノ方法ヲモ採用シタルノ結果多少耕作人ノ勞費ヲ
増スモノト認メ賠償價格中ニ之ヲ見込ミ百分ノ七ニ相當スル値上ヲ斷行シタリ

○委員長伯爵奧平昌恭 質問ナキヤヲ諮ヒ質問ナキヲ以テ本案ヲ討議ニ付スヘキ旨ヲ宣告ス

○委員仁尾惟茂 本員ハ本案ニ反對ノ見解ヲ有スルヲ以テ一應意見ヲ述ヘム凡專賣制度ノ短所ハ取締上ノ困難ヲ感スルニ在リ故ニ之カ取締方法ニ付テハ嚴密ナル規定ヲ設クルニアラサレハ徒ニ脱漏ノ結果ヲ來シ煙草專賣制度ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルノ虞アリ而シテ煙草專賣制度ノ根底ハ有形的ニ取締上ノ困難ヲ感スルコト尠ク容易ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシト認メラルルニ在リ是レ其ノ第一ニ苗床ニ於テ第二ニ移植ニ際シ第三ニ段別ニ付其ノ他量目査定、葉數査定等ノ順序ニ依リ有形的ニ取締ヲ爲スコトヲ得ルニ由ル而シテ本案ハ以上ノ取締ノ方法中獨リ葉數ノ査定ハ徒ニ煙草耕作人ノ勞費ヲ過大ナラシムルヲ以テ之ヲ廢止セムト欲スルモ是レ皮想ノ見解ニシテ實際ニ伴ハサルノ謬見ナルコトハ今茲ニ多ク言フヲ要セサルナリ葉數査定ハ必シモ煙草耕作人ノ勞費ヲ過大ナラシムルモノニアラサルト同時ニ取締上最必要ナル條件ナリ本員ハ嘗テ專賣制度視察ノ目的ヲ以テ歐洲ニ赴キ佛蘭西專賣局長官ニ會見シテ煙草專賣制度ニ關シ其ノ意見ヲ質シシニ同長官ハ其ノ意見ノ一トシテ煙草專賣制度ノ施行上葉數査定ノ方法ハ寔ニ必要缺クヘカラサル條件タルコトハ同國百年來ノ經驗ノ教示スル所ナリト斷言セリ以テ葉數査定カ如何ニ煙草專賣制度ノ上ニ重キヲ爲スカヲ知ルニ足ルヘシ之ヲ要スルニ葉數査定ノ方法ハ煙草耕作人ノ美風ヲ維持シ犯則ヲ防禦スル上ニ於テ最適當ノモノナルコト猶戰事ノ

急ニ備ヘムカ爲ニ平素軍備ヲ怠ラサルカ如シ若現行煙草專賣制度ノ上ニ於テ葉數査定ノ方法ヲ除カムカ煙草ノ專賣ハ爲ニ其ノ基礎ヲ破壞セラルルモノト謂フモ敢テ過言ニアラサルヘシト信ス故ニ葉數査定ノ方法ハ飽迄法ノ威力ヲ付シ以テ耕作人ヲシテ法ヲ尊重シ耕作完成ノ義務ヲ果スノ美風ヲ維持シ助長セシムヘキナリ故ニ本員ハ本案ニ向ヒ絶對的ニ反對ヲ表スル者ナリ

○委員長伯爵奧平昌恭 本案ヲ表決ニ付ス

否 決

○委員長伯爵奧平昌恭 本案ハ全會一致ヲ以テ否決セラレタル旨ヲ告ケ散會ヲ命ス

散會 午後零時十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

煙草專賣法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十八日

右特別委員長

伯爵 奧 平 昌 恭

貴族院議長公爵德川家達殿

| | | |
|------|----|-------|
| 委員長 | 伯爵 | 奧平昌恭印 |
| 副委員長 | | 仁尾惟茂印 |

樺太酒類出港稅法案特別委員會

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法中改正法律案特別委員會
明治三十四年法律第十號中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス
委員選舉

○明治四十五年三月十八日議長ノ指名ヲ以テ樺太酒類出港稅法案、工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法中改正法律案、明治三十四年法律第十號中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

| | |
|----|-------|
| 伯爵 | 寺島誠一郎 |
| 子爵 | 鍋島直彬 |
| 子爵 | 京極高德 |
| 子爵 | 前田利定 |
| 男爵 | 尾崎三良 |
| 男爵 | 村上敬次郎 |

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | | |
|------|-------|-------|---|
| 男爵 | 東 | 鄉 | 安 |
| | 石井省一郎 | | |
| | 西川甚五郎 | | |
| 委員長 | 伯爵 | 寺島誠一郎 | |
| 副委員長 | 子爵 | 鍋島直彬 | |

會議

第一回 明治四十五年三月十九日

出席委員

| | | | | | |
|-----|----|-------|------|----|-------|
| 委員長 | 伯爵 | 寺島誠一郎 | 副委員長 | 子爵 | 鍋島直彬 |
| 委員 | 子爵 | 京極高德 | 同 | 子爵 | 前田利定 |
| 同 | 男爵 | 村上敬次郎 | 同 | 男爵 | 東郷安 |
| 同 | | 石井省一郎 | 同 | | 西川甚五郎 |

出席政府委員

| | |
|--------|-------|
| 拓殖局部長 | 宮尾舜治 |
| 樺太廳長官 | 平岡定太郎 |
| 樺太廳事務官 | 竹内友二郎 |

開會 午前十時二十一分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

樺太酒類出港稅法案

第一條 本法ニ於テ酒類ト稱スルハ燒酎、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ

前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造稅法ニ於ケル燒酎ヲ謂ヒ酒精及酒精含有飲料ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料稅法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ

第二條 樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ燒酎ニ付テハ酒造稅法、酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒精及酒精含有飲料稅法ノ造石稅ト同一ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

第三條 酒類ハ命令ヲ以テ指定シタル港ニ由ルニ非サレハ移出スルコトヲ得ス

第四條 酒類ヲ移出セムトスル者出港稅ヲ納付シタルトキハ領收證及船積免狀ヲ交付ス

第五條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前其ノ積取石數ヲ收稅官吏ニ届出ツヘシ

第六條 收稅官吏又ハ警察官吏ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ出港船舶ニ臨檢スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第七條 出港稅ヲ納付セスシテ酒類ヲ船積シ又ハ移出シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル

罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス既ニ處分シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第八條 第五條ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 收稅官吏又ハ警察官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問

ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條 酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他

ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第七條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ヲ處罰ス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者未成年者又ハ禁治產者ナ

ルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付

テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、

第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用井ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法中改正法律案

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法中左ノ通改正ス

第一條中「造石稅」ノ下ニ「又ハ出港稅」ヲ加フ

第二條中「沖繩縣酒類出港稅」ヲ「出港稅」ニ改ム

第五條第一項中「造石稅」ノ下ニ「又ハ出港稅」ヲ加フ

明治三十四年法律第十號中改正法律案

明治三十四年法律第十號中左ノ通改正ス

第一條中「造石稅」ノ下ニ「若ハ出港稅」ヲ加フ

第二條中「輸出港稅關」ヲ「政府」ニ、第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 納稅濟證明書

(附記) 本委員會議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十六分

第二回 明治四十五年三月二十二日

出席委員

- | | | | | | |
|-----|----|-------|------|----|-------|
| 委員長 | 伯爵 | 寺島誠一郎 | 副委員長 | 子爵 | 鍋島直彬 |
| 委員 | 子爵 | 京極高德 | 同 | 子爵 | 前田利定 |
| 同 | 男爵 | 尾崎三良 | 同 | 男爵 | 村上敬次郎 |
| 同 | 男爵 | 東郷安 | 同 | | 石井省一郎 |
| 同 | | 西川甚五郎 | | | |
- 出席政府委員

拓殖局部長

宮尾舜治

樺太廳事務官

竹内友二郎

開會 午前十時四十一分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時二十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

樺太酒類出港稅法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法中改正法律案

樺太酒類出港稅法案特別委員會、工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法中改正法律案特別委員會、明治三十四年法律第十號中改正法律案特別委員會

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

明治三十四年法律第十號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 寺島誠一郎印

副委員長 子爵 鍋島直彬印

臘虎臘肭獸獵獲禁止ニ關スル法律案特別委員會

臘虎臘肭獸獵業者等ニ對スル交付金下付ニ關スル法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○明治四十五年三月十八日議長ノ指名ヲ以テ臘虎臘肭獸獵獲禁止ニ關スル法律案、臘虎臘肭獸獵業者等ニ對スル交付金下付ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|------|-------|
| 男爵 | 北垣國道 |
| 子爵 | 曾我祐準 |
| 子爵 | 冷泉爲勇 |
| 子爵 | 有馬賴之 |
| 男爵 | 村田保 |
| 男爵 | 山内萬壽治 |
| 男爵 | 生駒親忠 |
| 湯地定基 | |

臘虎臘肭獸獵獲禁止ニ關スル法律案特別委員會、臘虎臘肭獸獵業者等ニ對スル交付金下付ニ關スル法律案特別委員會

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | |
|-------|------|--------|
| 磯邊 包義 | 委員長 | 村田 保 |
| | 副委員長 | 山内 萬壽治 |

第一回 明治四十五年三月十九日

出席委員

| | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 農商務大臣 | 男爵 | 湯地 定基 | 同 | 磯邊 包義 |
| 農商務次官 | 押川 則吉 | 農商務技師 | 北原 多作 | |
| 出席政府委員 | 農商務技師 | 北原 多作 | | |
| 出席主務官 | 農商務技師 | 北原 多作 | | |

出席政府委員

農商務次官 押川 則吉

開會 午前十時四十六分

○副委員長男爵山内萬壽治 開會ヲ宣告ス

(參照)

臘虎臘肭獸獵獲禁止ニ關スル法律案

第一條 白令海、勘察加海、「オコック」海及日本海ヲ包含スル北緯三十度以北ノ北太平洋ニ於テハ臘肭獸ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超ユル前項ノ海面ニ於テハ臘虎ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 臘肭獸ノ陸上獵獲及帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超エサル範圍内ニ於ケル臘虎ノ獵獲ハ政府ニ專屬ス

第三條 臘虎臘肭獸又ハ其ノ獸皮ハ之ヲ帝國內ニ輸入又ハ移致スルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ

定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 海軍艦艇乗組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ必要アリト認ムルトキハ船舶店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ、帳簿物件ヲ檢査シ又ハ本法ニ違反スル行爲アリト認ムルトキハ船舶船具獵具船籍證書若ハ獵獲物ヲ差押へ、船員ヲ抑留シ若ハ之ヲ相當官吏ニ引致スルコトヲ得

第五條 第一條ノ規定ニ違反シ又ハ私ニ第二條ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ犯罪若ハ其ノ準備ノ爲土地家屋船舶其ノ他ノ物件ヲ使用シ若ハ使用セシメタル者又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ罰前項ニ同シ

第六條 前條第一項ノ犯罪行爲ニ供シタル船舶船具獵具及本法ニ違反シテ獵獲輸入又ハ移致シタル臘虎臘肭獸又ハ其ノ獸皮ニシテ犯人ノ所有スルモノハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第七條 第四條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條 本法ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「アイノ」人ニ之ヲ適用セサルコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臘虎臘肭獸獵法ハ之ヲ廢止ス

臘虎臘肭獸獵業者等ニ對スル交付金下付ニ關スル法律案

第一條 政府ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ其ノ請求ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ交付金ヲ下付ス

- 一 明治四十四年十二月十五日ニ於ケル臘虎臘肭獸獵免許獵業者
 - 二 前號ノ獵業者ノ免許證ニ記載シタル明治四十四年十二月十五日現在ノ獵船及其ノ附屬物ノ所有者
 - 三 明治四十四年ニ於テ免許ニ依ル臘虎臘肭獸獵船ニ乗組ミタル船員
 - 四 明治四十三年ニ於テ免許ニ依ル臘虎臘肭獸獵船ニ乗組ミタル船員ニシテ疾病傷痍其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ休業シタル者
- 前項ノ規定ハ臘虎臘肭獸ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ル「アイノ」人ニ付テハ之ヲ適用セス

第二條 交付金ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

- 一 前條第一項第一號ニ該當スル者ニ對シテハ一年ノ認定獵獲物賣拂代金ノ五割
- 二 前條第一項第二號ニ該當スル者ニ對シテハ明治四十四年十二月十五日以前ニ於ケル該所有物ノ認定價額ノ七割
- 三 前條第一項第三號又ハ第四號ニ該當スル者ニ對シテハ各其ノ一年ノ認定收入額ニ依リ船長及測量士ニ在リテハ其ノ十割、銃手ニ在リテハ其ノ二十割、其ノ他ノ船員ニ在リテハ其ノ七割以內

前項ノ獵獲物賣拂代金、所有物價額及船員收入額並交付金ヲ下付スヘキ獵船ノ附屬物ノ種類及數量ハ査定委員會ノ議決ニ依ル

査定委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 交付金ノ總額ハ百十二萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス

第四條 交付金ハ額面金額ニ依リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス

第五條 政府ハ前條ノ給付ニ必要ナル國債證券ヲ發行スルコトヲ得

第六條 主務大臣ハ第一條第一項第二號ニ該當スル者ニ對シ期日及場所ヲ指定シ其ノ獵船及附屬物ノ廻送ヲ命スルコトヲ得

前項ノ廻送ヲ爲ササル者ハ交付金ヲ受クルコトヲ得ス但シ主務大臣ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 交付金下付ノ請求ハ明治四十五年五月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

本法施行ノ際帝國内ニ在ラサル者ハ明治四十五年八月三十一日迄ニ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○副委員長男爵山内萬壽治 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十六分

第二回 明治四十五年三月二十二日

出席委員

| | | | |
|------|------|--------|-------|
| 委員長 | 村田保 | 副委員長男爵 | 山内萬壽治 |
| 委員男爵 | 北垣國道 | 同子爵 | 冷泉為勇 |
| 同子爵 | 有馬賴之 | 同男爵 | 生駒親忠 |
| 同 | 湯地定基 | 同 | 磯邊包義 |

出席國務大臣

| | |
|---------|------|
| 外務大臣子爵 | 内田康哉 |
| 農商務大臣男爵 | 牧野伸顯 |

出席政府委員

| | |
|-------|------|
| 農商務次官 | 押川則吉 |
|-------|------|

出席主務官

| | |
|-------|------|
| 農商務技師 | 北原多作 |
|-------|------|

開會 午前十時十九分

○委員長村田保 開會ヲ宣告ス

○委員長村田保 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

臘虎臘肭獸獵獲禁止ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

村田保

貴族院議長公爵徳川家達殿

臘虎臘肭獸獵業者等ニ對スル交付金下付ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

村田保

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長

村田

保印

副委員長 男爵

山内萬壽

治印

農工銀行法中改正法律案(衆第十號)特別委員會

日本勸業銀行法中改正法律案特別委員會

農工銀行法中改正法律案(政第二十二號)特別委員會

北海道拓殖銀行法中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議録ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○明治四十五年三月十八日議長ノ指名ヲ以テ農工銀行法中改正法律案(衆第十號)特別委員ヲ選定ス
ルコト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 伯爵 | 吉井幸藏 |
| 子爵 | 井伊直安 |
| 子爵 | 青木信光 |
| 子爵 | 牧野忠篤 |
| 男爵 | 伊東義五郎 |
| 男爵 | 坪井九郎 |

(附記)

日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案(政第二十二號)、北海道拓殖銀行法中改正法律案、明治四十五年三月二十日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ農工銀行法中改正法律案(衆第十號)特別委員ニ付託セラル

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 吉井 幸藏
副委員長 鮫島 武之助

會議

第一回 明治四十五年三月二十二日

出席委員

委員長 伯爵 吉井 幸藏 委員 子爵 井伊 直安

同 子爵 青木 信光 同 子爵 牧野 忠篤
同 男爵 伊東 義五郎 同 男爵 坪井 九八郎
同 木内 重四郎 同 松原 芳太郎
出席政府委員

大藏省理財局長 勝田 主計

開會 午後一時十五分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

(参照)

農工銀行法中改正法律案(衆第十號)

農工銀行法中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項株式ノ金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ限リ之ヲ五十圓迄上スコトヲ得

日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第三十五條ノ二 日本勸業銀行ハ券面金額二十圓以下ノ勸業債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス
第一項ノ規定ニ依リ發行スル勸業債券ニハ商號及商法第七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ勸業債券ノ賣出期間満了ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ登記スヘキ事項ハ賣出期間内ニ於ケル勸業債券ノ賣上總額及商法第七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項トス
賣出ノ方法ニ依リ勸業債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケル勸業債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第三十五條ノ三 日本勸業銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ勸業債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ
第五十六條中「第三十四條」ノ下ニ「又ハ第三十五條ノ二」ヲ加フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

農工銀行法中改正法律案(政第二十二號)

農工銀行法中左ノ通改正ス

第二十六條ノ二 農工銀行ハ券面金額二十圓以下ノ農工債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出ノ方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス
第一項ノ規定ニ依リ發行スル農工債券ニハ商號及商法第七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ農工債券ノ賣出期間満了ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ登記スヘキ事項ハ賣出期間内ニ於ケル農工債券ノ賣上總額及商法第七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項トス
賣出ノ方法ニ依リ農工債券ノ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケル農工債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
第二十六條ノ三 農工銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ農工債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商

法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ
第四十六條中「第二十六條」ノ下ニ「又ハ第二十六條ノ三」ヲ加フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス

第十二條ノ二 北海道拓殖銀行ハ券面金額二十圓以下ノ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出ノ方

法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ社債申込證ヲ作ルコトヲ要セス

第一項ノ規定ニ依リ發行スル債券ニハ商號及商法第七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ

掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

商法第二百四條ノ三第一項ノ期間ハ債券ノ賣出期間満了ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ登記スヘキ事項ハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額及商法第七十三條第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項トス

賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請書ニハ賣出期間内ニ於ケル債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十二條ノ三 北海道拓殖銀行ハ賣出ノ方法ニ依リ債券ヲ發行セムトスルトキハ賣出期間及商法第二百三條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第二十七條中「第十二條」ノ下ニ「又ハ第十二條ノ三」ヲ加フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○委員長伯爵吉井幸藏 農工銀行法中改正法律案(衆第十號)ヲ議題ニ供ス

○委員伯爵吉井幸藏 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員勝田主計 既ニ了知セラルルカ如ク初メ本案ハ株式二十圓ヲ五十圓以内ニ改ムルモノ

トシテ衆議院ニ發議セラレタリシカ發議者ノ言ヲ聽クニ農工業者ノ資金調達ノ必要アルハ言フ迄モナキコトニシテ從テ其ノ金融機關タル農工銀行ノ信用ヲ高ムルヲ急務トスト雖社會ノ事業ノ變遷ニ伴ヒ株式金額二十圓ニテハ少額ニ失シ今日實際ノ狀況ニ適セサルヲ以テ之ヲ五十圓迄ニ上スコトヲ得ルモノトセムトスト謂ヘリ政府委員モ委員會ニ出席シテ種種研究ヲ遂ケ之ヲ修正シテ本案ノ成立ヲ見ルニ至レリ而シテ政府ノ本案ニ同意シタルハ本案ノ趣旨ハ農工銀行ノ信用ヲ高メテ資金ヲ得ルノ途ヲ開キ以テ農工業者ニ低利ノ資金ヲ融通セムトスルモノニシテ時勢ノ要求ニ合スルモノト認メタルニ由ル抑農工銀行ノ設立ニ關シテハ獨逸ニ於ケル組合ノ制度ヲ基礎トセルモノニシテ之ヲシテ農工業者ノ金融機關タラシメムコトヲ期シタリ而シテ株式金額ヲ二十圓ノ少額ト爲シタル所以ハ此ノ制度ニ基キ地方ノ人民ヲシテ一般ニ遺漏ナク株式ヲ有セシメムトスルノ趣意ニ出テシモノナリ而シテ同行ニハ拂込資本金額ノ五倍ニ至ル迄ノ農工債券ヲ發行スルノ權能ヲ有セシメタルモ尙微微トシテ發達セス日本勸業銀行ノ勸業債券ヲ以テ募集シタル資金ノ融通ヲ仰クノ有様ナリ蓋日本勸業銀行ノ債券ハ割増金附ナルモ農工銀行ノ債券ハ然ラス故ニ此ノ結果ヲ生スルヲ以テ農工銀行ニモ割増金附債券ノ發行ヲ許可セラレ以テ同行ノ信用ヲ増大セラレタリトノ說アリシモ割増金附ノ制度ハ例ヘハ毒藥ノ如キモノナリ廣ク之ヲ用

ウルトキハ人民ニ大ナル影響ヲ及ホスヲ以テ容易ニ之ヲ許可スルヲ得ス然レトモ一面ニハ農工業ニ對スル資金豊富ナラス又資金ニ對スル利息高率ナリトノ論アルヲ以テ政府ハ之カ救濟策ヲ攷究シツツアリ昨年本法改正ノ際其ノ第一歩トシテ株主タル者ノ資格中農工銀行營業區域内ニ原籍ヲ有スルコトノ制限ヲ削除シ又一面ニ於テ農工債券ノ發行ニ付盡力セルヲ以テ今日ニ於テハ其ノ成績佳良ナリ然レトモ農工銀行發達ノ程度ハ府縣ニ依リ一様ナラス例ヘハ大都會所在ノ地方ニ於テ發達シ都市ノ少キ地方ニ於テ不振ナルカ如シ而シテ都市ノ少キ地方ニ於テハ株式金額ヲ大ニスルノ必要ヲ認メスト雖大都會所在ノ地方ニ在リテハ然ラス是レ本案カ特ニ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ限り株式金額ヲ増加スルヲ得シメ以テ地方ニ依リ適當ニ株式金額ヲ決定スルコトトシ大ナル必要ナキ限リハ株式金額ノ増加ヲ許ササル所以ナリ斯ノ如クスレハ便宜アルモ弊害ヲ生スルコトナキヲ以テ政府ハ本案ニ同意ヲ表シタリ

○委員男爵伊東義五郎 政府委員ノ說明ニ依レハ農工銀行ハ獨逸ニ於ケル組合制度ノ精神ニ依リ設立セラレタルモノニシテ細民ノ零碎ナル資金ヲモ募集シテ株式所有者ノ普及ヲ圖ルヲ目的トス然ルニ一方ニ於テ同行ノ資金ヲ増加スルノ見地ヨリ地方ニ依リ又經濟發達ノ程度ニ依リ株式金額ヲ増加スルヲ得シムルヲ至當トスト認ムト雖政府ハ尙組合制度ノ精神ニ依リ細民ヲシテ株

式所有者タルノ利益ヲ享ケシムルノ方針ヲ維持セララルヤ

○政府委員勝田主計 然リ

○委員男爵伊東義五郎 大都會ニ於ケル農工銀行株主ニシテ一株若ハ二株ヲ所有スル者アリヤ之アリトスレハ其ノ數如何

○政府委員勝田主計 今調査シタル表ヲ有セス唯參考トシテ株數ト株主トノ割合ヲ示セハ東京府農工銀行ニ在リテハ株數五萬ヲ七百八十四人ニテ、京都府農工銀行ニテハ株數五萬ヲ千六百五十四人ニテ、又大阪府農工銀行ニテハ株數五萬ヲ千九百九十八人ニテ所有ス

○委員木内重四郎 地方ニ於ケル農工銀行ニ付前述ノ事項ヲ舉示セラレムコトヲ望ム

○政府委員勝田主計 三重縣農工銀行ニ在リテハ株數五萬ヲ四千八百七十九人ニテ所有シ岡山縣農工銀行ニテハ株數五萬ヲ四千四百四十人ニテ所有ス

○委員子爵青木信光 二十圓ノ株式ヲ五十圓ノモノトスル方法如何

○政府委員勝田主計 株式金額ノ増加ハ之ヲ強制スルニアラス要スルニ地方ノ狀況ニ依リ臨機ノ處置ヲ採リ以テ實際ノ不便ヲ避ケムトス

○委員男爵伊東義五郎 政府ハ大都會所在地方農工銀行ノ株式金額ハ五十圓ヲ限り之ヲ増加スル

モ差支ナシト考ヘラレタルモノナルヘシ然ラハ政府ハ東京府大阪府等ノ農工銀行營業區域ニ在ル細民ハ五十圓ノ株式ニ應募スルノ富力ヲ有スト認メタリヤ

○政府委員勝田主計 農工銀行發達ノ狀態ハ資本金額ノ増加ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ即全國ニ互リ其ノ増加ハ株數ニテハ三十萬五千株、金額ニ於テ六百十萬圓ヲ算ス加之本年一月ヨリ三月ニ至ル間ニ於テ既ニ資本増加ヲ許可セシモノアリ斯ノ如キ處置ハ銀行ノ信用ヲ高ムル上ニ於テ政府ノ當然努メサルヘカサルモノナリ而シテ都會ノ地ニ於テハ他ノ地方ニ比シ富ノ程度高キヲ以テ多數ノ者ハ高額ノ株式募集ニ應スルコトヲ得ルモノト認メタルナリ

○委員男爵伊東義五郎 農工業者殊ニ細民ニ取リテハ財産増殖ノ爲株式金額ノ少キコトヲ必要ナリト思考ス何トナレハ零碎ノ貯蓄ト雖此ノ金融機關ニ投資シ得ルヲ以テナリ政府ノ見解如何

○政府委員勝田主計 株式ヲ賣買スルニハ少額ノ株券多數ナルトキハ手續非常ニ繁雜ナリ東京市等ノ都會地ニ於テハ質屋又ハ不動産ヲ抵當トシテ金ヲ貸出ス機關備ハルヲ以テ金融ニ便ナリト雖地方ニ於テハ一ニ農工銀行ニノミ依頼セサルヘカラス此ノ理由ヲ以テ大藏大臣ノ嚴密ナル監督ノ下ニ高額ノ株券ヲ發行スルコトヲ許可スルモ差支ナシト思考ス

○委員男爵伊東義五郎 大都會ニ於テハ多數ノ株券ヲ一人ニテ所有スル者多シト聞ク然レトモ本法ノ趣意ハ細民ヲシテ株主タルノ恩典ニ浴セシムルニ在ルヲ以テ株式金額ヲ増加スルハ細民ヲ苦シムルノ結果ヲ生スルニアラサルカ本法ノ精神ハ沿ク地方官等迄ニモ十分了解セシメタリヤ如何

○政府委員勝田主計 十分ナリトハ謂フヲ得スト雖地方ニ在ル大藏省ノ監督官ヨリ之カ注意ヲ爲シツツアリ

○委員男爵伊東義五郎 地方ニ於テハ農工銀行株式ノ一株若ハ二株ヲ所有スル者多少之アルヘシト思考ス而シテ本案ノ議會ヲ通過シタル後少額ノ株式ヲ高額ノモノト變スル場合ニ於テハ農工銀行總會ノ決議ヲ經ヘキハ勿論ナリト雖細民ハ二十圓以上ノ拂込ニ困難ヲ感スルコトアルヲ以テ結局他ニ壓倒セララルルノ結果ヲ生スルニアラサルカ政府ハ此ノ點ニ付懸念ナキヤ

○政府委員勝田主計 貴問ノ如キ懸念アルヲ以テ政府ハ衆議院ニ於テ發議者ノ原案ニハ贊成セザリキ本案ニ於テハ之ト異リ大藏大臣ノ監督ノ下ニ株主ニ迷惑ヲ被ラシメサル場合ニ限り株式金額ノ増加ヲ許可スルモノニシテ弊害ヲ生スルコトナシト信ス

○委員木内重四郎 二十圓拂込ノ株式ヲ五十圓拂込ノモノトスルニハ特ニ現金ヲ加フルニアラサ

レハ爲シ能ハサルヘシ如何

○政府委員勝田主計 貴問ノ如キ場合少數ナルトキハ買收ニ依ル等整理ノ方法ヲ講スルナルヘシ

○委員木内重四郎 農工銀行ハ農工銀行法發布ノ後發達シタリ最初ノ狀況ニテハ株式金額ヲ二十圓トスルヲ必要トシタリトスルモ現今ノ經濟界ノ實際ニ鑑ミ之ヲ五十圓迄ニ増加スルモ差支ナカルヘシ本法制度ノ動機ハ獨逸ノ組合ニ鑑ミルニ在リシナラムモ先ツ法律ヲ發布シテ實際ヲシテ之ニ伴ハシムルヲ可トス故ニ本案ハ適當ノモノナルヘシ

○政府委員勝田主計 木内委員ノ説ハ進歩シタル思想ナリ時勢ノ變遷ニ鑑ミ進歩シタル思想ニ舊制ヲ加味シテ實際ニ適セシムル必要アリ是レ政府ノ本案ニ贊成セル所以ナリ

○委員木内重四郎 二十圓ノ株式ヲ所有スル者ハ細民ト稱スヘキモノナルヘキカ

○委員松原芳太郎 本員カ農工銀行重役トシテ知得セシ所ニ依レハ我岐阜縣ニ於テハ最初ハ農工銀行株式ノ一株二株ヲ所有シタル者多カリシカ其ノ後併合行ハレ八千有餘ノ株主カ三千有餘トナルニ至レリ而シテ其ノ原因ハ株券騰貴ノ爲賣却シ又ハ所有ノ面倒ヲ厭ヒテ手放シタルモノノ如シスカル狀況ハ鄰縣ニ於テモ之ヲ見ル所ナリ故ニ本案ハ時勢ニ適セルモノナリト認ム

○委員男爵伊東義五郎 松原委員ニ問フ巨額ノ資金ヲ有スル者著著トシテ農工銀行株式ノ買占ヲ

實行スルトキハ本法制定ノ趣旨ニ反スルニアラサルカ又此ノ美ナル制度ヲ維持スル方法ナキカ

○委員松原芳太郎 本法ハ細民ヲシテ株式所有者タラシムルコトヲ庶幾スト雖實際上行ハレ難カ
ルヘシ

○委員男爵伊東義五郎 政府ニ於テハ深ク本改正案ヲ必要ト認メタルヤ

○政府委員勝田主計 政府ハ農工銀行ノ信用ヲ高クシ農工債券ノ發行力ヲ増加スルヲ必要ト認メ
本案ニ賛成セリ

○委員長伯爵吉井幸藏 本案ヲ討議ニ付ス

○委員松原芳太郎 本案ニ賛成ス

○委員子爵青木信光 本案ニ賛成ス

○委員男爵伊東義五郎 本員ハ本案ニ反對ノ理由ヲ陳述スヘシ農工銀行ノ株式金額ヲ二十圓トセ
シハ寧大都會ニ於テ同銀行ニ投資スル細民ノ財力ニ適當スルモノト信ス而シテ本案ハ農工銀行
ノ資金ヲ得ルコト及同行ノ信用ヲ高クスルコトノ理由ヲ以テ提出セラレ又本委員會ニ於テモ贊
成者ヲ得タルモノナラムモ是レ本法ノ特色タル地方ニ在リテ農工業ニ從事スル細民ヲシテ此ノ

金融機關ニ近カシメムトスルノ趣旨ヲ沒却シテ却テ之ニ遠カラシムルノ結果ヲ生スルノ憾アリ
故ニ尙研究ノ餘地アリト信スルヲ以テ本案ニ反對ス

○委員木内重四郎 本員ハ農工銀行ト地方經濟界トノ關係ヲ未十分ニ知悉セスト雖此ノ上尙農工
債券ヲ發行セシムルニハ資本ヲ増加スル必要アリト信ス而シテ二十圓ノ株式ヲ五十圓ノモノト
スルハ不可能ニアラス又現ニ東京ニテハ株主ノ數七百八十餘人ニシテ三重縣及岡山縣ニ於テハ
五千人ニ充タス果シテ然ラハ一村四五人位ノ割合ナルヘシ故ニ相當資財ヲ有スル者ノミ之ヲ所
有スヘクシテ資産少キモノハ之ヲ有セサルヘシ故ニ大藏大臣監督ノ下ニ本案ヲ實施スル以上ハ
本員ハ之ニ賛成ス

○委員長伯爵吉井幸藏 討論終了セシモノト認メ本案ヲ表決ニ付ス
可決

○委員長伯爵吉井幸藏 日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案(政第二十二號)及
北海道拓殖銀行法中改正法律案ヲ議題ニ供ス

(政府委員勝田主計 便宜ノ爲日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案(政第二
十二號)及北海道拓殖銀行法中改正法律案ヲ一括シテ説明スヘシ日本勸業銀行農工銀行北海道

拓殖銀行ニ於テ從來少額ノ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出ノ方法ニ依リタリシカ改正商法ハ債券ノ發行ハ總テ募集ノ方法ニ依ルヘキモノトシ賣出ノ方法ヲ認メス而シテ此等ノ銀行ニ於テ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法ノ除外例ヲ認メ以テ賣出ヲ許スヘキコトハ法律取調委員ニ於テモ悉ク之ヲ認メタリ是レ少額ノ債券ハ募集ノ方法ニ依ルトキハ手續困難ナルト從前既ニ賣出ノ方法ヲ實行セシヲ以テ之ヲ認ムルモ不可ナキトニ由ル而シテ本案ノ改正ヲ經タル後ハ大券ハ商法ニ準據シ小券ハ賣出ノ方法ニ依リテ發行セムトスルモノナリ又其ノ他ノ規定ハ債券ノ賣出ヲ許スノ結果トシテ必要ナルモノニシテ一説明ヲ俟タス而シテ北海道拓殖銀行法中改正法律案第二十二條第二項ハ當然債券券面金額ヲ十圓以上トスヘカリシヲ依然トシテ改正セザリシヲ以テ今般他ト均シク之ヲ改正セムトスルモノナリ

○委員木内重四郎 日本勸業銀行ニ於テ發行シタル大券ト小券トノ割合ヲ問フ

○政府委員勝田主計 日本勸業銀行ニテ發行シタル債券ハ一億五千萬圓ニシテ内券面額二十圓以下ノモノハ五千百萬圓ナリ

○委員伯爵吉井幸藏 大券ト小券トノ間ニ取締上ノ差異アリヤ又二十圓以下ノ債券ハ募集ノ方法ニ依ラサル理由如何

○政府委員勝田主計 二者相異ルコトナシ唯注意スヘキハ監督ノ必要上ヨリ賣出期間ヲ設ケタルニ在リ尙商法ノ例外ヲ設クルハ希望スル所ニアラスト雖募集ノ方法ニ依リ少額ノ債券數萬ヲ發行スルトキハ申込證ヲ作ル等ノ手續頗繁雜ニ互ルノ虞アリ又零碎ノ資金ヲ吸收スル爲ニハ賣出ノ方法ヲ認ムルヲ必要トス

○委員松原芳太郎 外國ニ於テ勸業債券ヲ發行シタリト謂フ如何

○政府委員勝田主計 未實行セス多數ノ公債海外ニ存在スルヲ以テ國外ニテ債券ヲ發行スルハ之ニ影響ヲ及ホスコトアリ故ニ研究ヲ要スヘキモノナリ此ノ事ハ實行セストハ斷言セサルモ今日ニ於テハ未斯カル考ヲ有セス併シ内地ニ在ル外國商店ニシテ勸業債券ヲ有スルモノアルハ之ヲ認ム

○委員長伯爵吉井幸藏 質問及意見ナキモノト認メ三案ヲ一括シテ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後三時

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

農工銀行法中改正法律案(衆第十號)特別委員會、日本勸業銀行法中改正法律案特別委員會、農工銀行法中改正法律案(政第二十二號)特別委員會、北海道拓殖銀行法中改正法律案特別委員會

農工銀行法中改正法律案(衆第十號)

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

伯爵 吉井 幸藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

日本勸業銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

伯爵 吉井 幸藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

農工銀行法中改正法律案(政第二十二號)

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

伯爵 吉井 幸藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

北海道拓殖銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

伯爵 吉井 幸藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 吉井 幸藏印

副委員長 鮫島武之助印

農工銀行法中改正法律案(衆第十號)特別委員會、日本勸業銀行法中改正法律案特別委員會、農工銀行法中改正法律案(政第二十二號)特別委員會、北海道拓殖銀行法中改正法律案特別委員會

明治四十五年三月十八日議長ノ指名ヲ以テ家畜市場法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

家畜市場法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月十八日議長ノ指名ヲ以テ家畜市場法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

委員長及副委員長選舉

- | | | |
|----|----|-----|
| 伯爵 | 德川 | 達孝 |
| 子爵 | 松平 | 直德 |
| | 淺田 | 德則 |
| | 田邊 | 輝實 |
| 男爵 | 竹腰 | 正己 |
| | 中島 | 永元 |
| | 中村 | 治兵衛 |
| | 荒井 | 泰治 |
| | 松尾 | 廣吉 |

○明治四十五年三月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | | |
|------|----|----|----|
| 委員長 | 伯爵 | 德川 | 達孝 |
| 副委員長 | | 中島 | 永元 |

第一回 明治四十五年三月十九日

會議

出席委員

| | | | | | | |
|-----|----|----|----|------|----|----|
| 委員長 | 伯爵 | 德川 | 達孝 | 副委員長 | 中島 | 永元 |
| 委員 | 淺田 | 德則 | 同 | 田邊 | 輝實 | |
| 同 | 男爵 | 竹腰 | 正己 | 同 | 荒井 | 泰治 |
| 同 | | 松尾 | 廣吉 | | | |

出席政府委員

農商務省農務局長

下岡忠治

開會 午前十時二十五分

○委員長伯爵德川達孝 開會ヲ宣告ス

(參照)

家畜市場法中改正法律案

家畜市場法中左ノ通改正ス

第七條第一項中「家畜ノ賣買交換ヲ業トスル者」ヲ「家畜ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ヲ業トスル者若ハ屠肉販賣ノ目的ヲ以テ家畜ノ買入ヲ爲ス者」ニ改ム

○委員伯爵德川達孝 本案ニ對スル政府委員ノ意見如何

○政府委員下岡忠治 本案カ衆議院ニ於テ發議セラレタル際ニハ家畜市場ノ監督ハ東京府ニ在リテハ東京府知事ノ行フ所ナルヲ以テ改メテ警視總監ノ行フ所タラシムルコト及現行法第七條ニ「家畜ノ賣買交換ヲ業トスル者」トアルヲ「家畜ニ關スル營業者」ト改正セムトスルノ法文ナリシナリ然レトモ東京府知事ノ監督權ヲ警視總監ニ移スコトニ付テハ家畜市場ノ性質上ヨリ之ニ同意スルコトヲ得ス又家畜ノ賣買交換ヲ業トスル者トノ現行ノ法文ハ政府ニ於テモ狹キニ失スルモノト認メタルモ之ヲ家畜ニ關スル營業者ト改ムルトキハ其ノ意義廣汎ニ過クルヲ以テ原案ヲ修正シテ本案ノ法文トナリ貴族院ニ提出セラルルニ至リシナリ初メ家畜市場法ノ制定セララルヤ政府ハ家畜ノ賣買交換ヲ業トスル者トノ法文ヲ稍廣キ意味ニ解釋シタリシカ其ノ後實際上ノ

解釋ハ甚狹クシテ單ニ牛馬ノ賣買交換者即所謂博勞ノミニ限リタルヲ以テ家畜市場設立セラルルモ單ニ牛馬ノ周旋ヲ業トスル者及屠肉販賣ノ目的ヲ以テ家畜ノ買入ヲ爲ス者ノ如キハ家畜市場法ニ依リテ何等ノ制限ヲ受クルコトナク極メテ自由ニ賣買交換ヲ爲シ以テ家畜市場法ニ依リ賣買交換ヲ行フ者ノ利益ヲ害シ併セテ該立法ノ精神ニ違反スルニ至リタルニ依リ時機ヲ見テ改正セムトノ希望ヲ有セシ次第ナレハ本案ニハ勿論贊成ノ意ヲ表スルモノナリ

○委員淺田德則 家畜市場法ノ實施以來全國ニ於テ開設セラレタル家畜市場ノ數如何

○政府委員下岡忠治 明治四十五年二月末ノ調査ニ依レハ臨時市場四百八、定期市場四百五十五、常設市場七十二、合計九百三十五ナリ以上ハ牛馬等ノ各市場ヲ合シタル數トス

○委員淺田德則 牧場主ニシテ不用ノ家畜ヲ屠殺シ又ハ之ヲ他ニテ使用スル者ノ爲ニ適宜賣却スルトキハ本案ノ規定ニ支配セラルルカ

○政府委員下岡忠治 其ノ場合ハ本案ノ規定ノ適用ヲ受ケス何トナレハ是レ市場ト認ムルコトヲ得サルヲ以テナリ

○委員中島永元 東京府ニ於テハ警視廳ヲシテ地方ニ於テハ警察署ヲシテ家畜市場ヲ監督セシムルヲ不可トスル理由如何

○政府委員下岡忠治 家畜ニ關スル事項中家畜ノ傳染病例ハ牛疫炭疽等ノ發生シタル場合ニ於テハ之ニ對スル處置ハ迅速ヲ尊ヒ且幾分カ強制的臨機的ナルヲ必要トスルカ故ニ此等ノ事項ハ之ヲ警察官ノ所管ト爲スヲ便宜ナリトス然レトモ産業ノ發達ヲ期スルヲ目的トスル勸業行政ノ見地ヨリスレハ家畜市場ノ如キハ能ク人民ト意思ノ疏通ヲ計リ穩ニ之ヲ指導獎勵スルヲ得策トスルカ故ニ家畜市場ノ監督ハ東京府ニ於テハ東京府廳其ノ他ノ府縣ニ於テハ當該府縣内務部ノ所管ニ屬セシムルヲ可ナリトス

○委員伯爵德川達孝 家畜市場附近ノ區域内ニ於テ家畜ノ賣買交換ヲ行フコトヲ行政官廳ヨリ許可セラルル場合如何

○政府委員下岡忠治 種種ノ場合アリ例ハ家畜市場附近ニ於テ公ノ目的ノ爲ニ軍馬ヲ賣買交換スルカ如キ又ハ或種ノ産業機關ニ依リテ之ヲ爲ス場合ハ公益ノ目的ニ依ルカ故ニ之ヲ許可スルカ如キ一例トシテ數フルコトヲ得ヘシ

○委員伯爵德川達孝 家畜市場附近ノ區域内ニ於テ斯ノ如ク家畜ノ賣買交換ヲ許可スルハ其ノ家畜市場ニ影響スルコトナキカ

○政府委員下岡忠治 必シモ影響ナキニアラサルヘシ家畜市場ニ惡影響ヲ及ホスヲ以テ之ヲ許可

○委員中島永元 市場ニ於テ取扱フ家畜ノ數如何

○政府委員下岡忠治 市場ニテ取扱フ家畜ノ數ニ至リテハ明確ニ答ヘ難シ福島縣ニ於テハ總數二萬頭許ニシテ他府縣ニ於テハ三百頭五百頭ヲ算スル所モアリ東京府ノ如キハ一萬五千頭許ナリ而シテ東京府ニ於テ比較的ニ少數ナルハ地方ニテ家畜ヲ賣買シ之ヲ東京ニ移入シ來ルニ由ルモノトス

○委員伯爵德川達孝 現今本邦ニ於ケル羊ノ賣買交換ノ情況如何

○政府委員下岡忠治 本邦ニ於テハ牧羊事業ハ萎微トシテ振ハス羊ノ頭數ハ全國ヲ通シテ僅ニ五六千ニ過キサルナリ北海道ニ於テハ稍羊ヲ飼養スルニ至リシモ其ノ羊毛ハ輸入羊毛ノ巨額ニ敵スヘクモアラス是レ主トシテ我國ノ地勢ハ大牧場ヲ企畫スルヲ得サルニ因ル

○委員中島永元 從來家畜ノ賣買交換ヲ營業トスル者カ市場ヲ避ケテ自由ナル秘密賣買交換ヲ欲スルハ市場手數料ノ多大ナルニ原因スルコトナキカ

○政府委員下岡忠治 家畜ノ賣買交換ヲ業トスル者カ市場ヲ嫌厭スルノ原因ハ一ハ多年ノ慣行ニ依ルト一ハ市場ニ於ケル手數料ノ徵收ヲ嫌忌スルニ在ルナラム然レトモ確實ナル市場設立セラ

レ其ノ信用確立シ家畜ノ公定相場ヲ生スルニ至ラハ賣買ニ暴利ヲ貪ラルルノ危險ナク價額モ却テ確實ニシテ低廉ニ赴クモノト思惟ス

○委員淺田德則 東京市内ニ於ケル牛肉販賣業者ニシテ家畜市場附近ノ區域内ニ在ルモノカ地方遠隔ノ地ヨリ家畜ヲ買入レ其ノ肉ヲ販賣セムトスルトキハ其ノ營業所ハ市場附近ノ區域内ニ在ルカ故ニ營業スル能ハサルカ

○政府委員下岡忠治 本案第七條ノ場合ハ少シク夫レト異レリ市場ノ指定セラレタル以上ハ家畜ノ賣買交換ハ市場ニ於テスルノ外ナシ然レトモ地方ニ於テ家畜ヲ買入レ既ニ其ノ所有權ヲ得タルモノヲ東京ヘ移入シ牛肉トシテ販賣スルカ如キハ些ノ阻障アルヘカラサルナリ

○委員田邊輝實 牛馬周旋業者ノ如キハ所謂博勞ナル語ニ包含セラレ居ラサルカ

○政府委員下岡忠治 普通法文ニ見ユル所ヲ以テ推斷スレハ之ヲ包含セサルモノト思惟ス

○委員伯爵德川達孝 市場附近ノ區域及市場開催ノ期間ハ土地ノ情況ニ依リテ一定セサルモノナルカ

○政府委員下岡忠治 市場附近ノ區域及市場開催期間ハ地方長官ノ任意ニ指定スル所ナリ然レトモ區域ノ餘リニ區區タルハ不可ナルヲ以テ市場開設申請者ト地方長官ト協議シテ略一定セリ又

期間ハ定期家畜市場ニ在リテハ毎年定期ニ開催シ其ノ開催日數百日ニ達セス例ハ每週一回開催スルカ如キ是ナリ又常設家畜市場ニ在リテハ百日以上トシ臨時家畜市場ニ於テハ普通十日トス然レトモ法令ノ範圍内ニ於テ地方長官ハ之ヲ伸縮指定スルコトヲ得ルハ勿論ナリ

○委員中島永元 衆議院ヨリ本案ヲ提出シタル所以ハ家畜市場取締ノ困難ナルコト確ニ其ノ一因ヲ爲スモノナリ然レトモ俄ニ家畜市場ノ監督官廳ヲ變更スルコトハ産業ノ發達上不可ナリトセハ政府ハ十分ノ注意ヲ以テ立法ノ精神ヲ貫徹セラレムコトヲ希望ス

○委員長伯爵德川達孝 是ヨリ本案ノ討議ニ移ルヘキ旨ヲ宣告ス

○委員長伯爵德川達孝 別ニ意見ヲ述フル者ナキヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵德川達孝 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

家畜市場法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月十九日

右特別委員長

伯爵 德川 達孝

貴族院議長伯爵德川家達殿

委員長 伯爵 德川 達孝印

副委員長 中島 永元印

鑛業法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月十八日議長ノ指名ヲ以テ鑛業法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 子爵 | 鳥居忠文 |
| 子爵 | 松岡康毅 |
| 男爵 | 永井尙敏 |
| 男爵 | 本田親濟 |
| 男爵 | 神山郡昭 |
| | 西村亮吉 |
| | 江原芳平 |
| | 堀内半三郎 |
| | 佐藤助九郎 |

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

會議

第一回 明治四十五年三月二十三日

出席委員

| | | | | |
|--------|---------|------|---------|-------|
| 委員長 | 松岡康毅 | 副委員長 | 子爵 | 松岡康毅 |
| 委員 | 子爵 永井尙敏 | 委員 | 鳥居忠文 | 鳥居忠文 |
| 同 | 男爵 神山郡昭 | 同 | 男爵 本田親濟 | 本田親濟 |
| 同 | 男爵 江原芳平 | 同 | 西村亮吉 | 西村亮吉 |
| 出席政府委員 | | 同 | 佐藤助九郎 | 佐藤助九郎 |

農商務省鑛山局長

磯部正春

開會 午後二時十分

○委員長松岡康毅 開會ヲ宣告ス

(參照)

鑛業法中改正法律案

鑛業法中左ノ通改正ス

第二條第一項中「石油、」ノ下ニ「可燃質天然瓦斯、」ヲ加フ

同條第二項中「但シ」ノ下ニ「可燃質天然瓦斯ハ總テ」ヲ加フ

○委員男爵本田親濟 本員ハ政府委員カ本案ニ對スル意見ヲ陳述スルニ先チ質問ヲ試ミムト欲ス
 本員ハ可燃質天然瓦斯ナルモノノ化學的性質ニ付テハ殆了解スル所ナシト雖本案ニ對スル政府
 委員ノ反對意見ニ付テハ聊疑ヲ懷ク者ナリ抑此ノ天然瓦斯ハ千葉縣茂原、長野縣諏訪、其ノ他
 越後地方ニ於テ盛ニ噴出シ今後尙各地ニ於テ發掘シ得ルノ見込アリト聞ク而シテ其ノ發掘シテ
 得タル瓦斯ハ或ハ之ヲ營業用ニ供シ或ハ之ヲ家用ト爲シ人民ノ經濟上ニ裨益スル所尠カラサ
 ルモノノ如シ果シテ然ラハ營業用並個人用トシテ人民ニ經濟上ノ利益ヲ與ヘ且將來發達ノ見込
 十分ナリトスル此ノ種ノ天然瓦斯ヲ鑛業法ニ入ルルコトヲ拒ムノ理由ニ付テハ聊疑悞ノ感ナキ
 能ハス尙又天然瓦斯ヲ營業的ニ使用スル者ハ瓦斯ヲ通スヘキ設備ノ爲ニ公道ニ鐵管等ヲ敷設ス
 ルヲ要スルヤ必セリ斯ノ如キ場合ニ於ケル公道使用ニ對シテハ政府ハ何等ノ負擔ヲモ課セス無
 償ニ使用ノ自由ヲ許シ居ルモノナリヤ否ヤ以上ノ諸點ニ關スル政府委員ノ答辯ヲ求ム

○政府委員磯部正春 本案ニ所謂可燃質天然瓦斯トハ天然瓦斯ノ中ニテ通俗ニ所謂沼瓦斯ヲ指スモノナリ此ノ瓦斯ハ我國ニ於テハ上總房州地方ニテ東京附近ニ在リテハ大森、洲崎方面ニテ噴出シ又越後方面ニ於テモ之ヲ噴出ス就中千葉縣茂原ニテハ噴出比較的ニ盛ナリ而シテ之カ發掘ノ狀態ハ土地所有者カ自己ノ所有地内ニ於ケル井水ヲ汲取ルト同一ナリ茂原ニ於テハ之ヲ營業的ニ使用スル者二三アリト雖其ノ一晝夜ノ噴出量ハ僅ニ五馬力ヲ最高限トスルニ過キス而シテ此ノ種ノ天然瓦斯ハ性質上石油ト密接ノ關係アル天然瓦斯ノ如ク多量ニ噴出スルモノニアラス之ヲ外國ノ例ニ徵スルモ石油ト關係アル瓦斯ニ付テハ今日ノ如ク大ナル發展ヲ見タリト雖沼瓦斯ニ付テハ何等發達シタル事例ヲ見ス故ニ沼瓦斯ノ發達ハ將來ニ於テ望ムヘカラサルモノナリト信ス假ニ本案提出者ノ主張ヲ容レ沼瓦斯ヲ鑛業法中ニ加ヘムカ一面ニ於テ發掘權利者ニ利益ヲ與フルカ如キ觀アリト雖他面ニ於テハ出願並權利ノ維持ニ伴フ諸般ノ費用例ヘハ鑛業稅、鑛區稅等ノ如キモノヲ負擔セサルヲ得ス斯ノ如キハ上述ノ如ク發達ノ餘地ナキ沼瓦斯ノ使用ニ於テ收支相償フモノニアラス加之若鑛業法ノ保護ニ依リ獨占的ノ權利者ヲ生スルトキハ各方面ニ於ケル現在ノ小規模ナル營業者並自家使用者ニ對シテ一大打擊ヲ與フルモノト謂ハサルヘカラス故ニ沼瓦斯ヲ鑛業法中ニ加フルノ一事ハ權利者ヲ保護セムトシテ却テ其ノ利益ヲ阻害シ之カ

經濟的發達ヲ破壞スルモノナリト信ス政府ノ本案ニ反對スル理由モ亦全ク茲ニ存ス而シテ公道利用ノ取締ニ關シテハ政府ニ於テハ未各府縣ニ就キ詳細ナル取調ヲ爲ササルヲ以テ茲ニ明答スルコト能ハスト雖地方警察命令ニ依リテ取締ヲ爲スヲ得ルハ勿論ナリ要スルニ今日ニ於テハ未取締ヲ必要トスル程度ニ達シ居ラサルヲ以テ特ニ取締方法ナシト信ス又公道利用ニ關スル課稅問題ハ未鑛業法規ノ支配ニ屬セサル沼瓦斯ニ付テハ多クヲ研究スルノ機會ヲ有セサリシナリ

○委員男爵本田親濟 本員ノ聞知スル所ニ依レハ公道ヲ利用スト認ムヘキ瓦斯使用者ニ對シテモ尙特ニ課稅セスト謂フ然ラハ營業的ニ公道ヲ使用スルモノト雖尙且之ヲ課稅ノ目的ト爲スコトヲ得サルモノナリヤ寧之ヲ鑛業法ノ支配ノ下ニ移シ稅源ヲ設クルノ優レルニ如カサルニアラスヤ

○政府委員磯部正春 假令道路ヲ營業的ニ使用スルモ孰レモ小規模ノモノニシテ料理店若ハ理髮店ノ臺所用ニ供スルニ過キス從テ未課稅ノ目的ト爲スノ程度ニ達セス

○委員男爵本田親濟 沼瓦斯ニ付テハ之ヲ五馬力以上ニ發達セシムルコトヲ得サルカ

○政府委員磯部正春 今日ノ學說並經驗ノ示ス所ニ依レハ五馬力以上ノ發達ハ將來之ヲ望ム能ハサルヘシト信ス

○委員男爵本田親濟 天然瓦斯ヲ鑛業法ノ鑛物中ニ編入スルトキハ如何ナル利害關係ヲ人民ニ及
ホスヤ

○政府委員磯部正春 天然瓦斯カ鑛業法ノ支配ヲ受ケサル今日ニ於テハ土地所有者ハ自由ニ沼瓦
斯ノ使用ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖一旦之ヲ同法ノ鑛物中ニ加フルトキハ沼瓦斯其ノモノハ直接
ニ國家ノ所有ニ歸シ沼瓦斯ノ噴出スル土地ヲ所有スル者ト雖恣ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス尤本
案ハ自家用ノモノハ之ヲ除外スト雖土地所有者ハ爲ニ一定ノ範圍ニ於テ其ノ所有權ヲ制限セラ
ルルヤ明ナリ而シテ今日ノ實況ニテハ土地所有權ノ制限ヲ敢テシ以テ沼瓦斯ヲ鑛業法中ニ加フ
ルノ必要ヲ認メス又將來多量ニ噴出スルノ見込十分ナリトセハ所有權ニ關スル多少ノ制限ヲ設
クルモ敢テ意トスルニ足ラサルモ學說上並實驗上之カ發達ハ將來ト雖望ム能ハサルヲ以テ之ヲ
鑛業法ノ鑛物中ニ加ヘ以テ所有權ヲ制限スルノ要ナシト認ム

○委員男爵本田親濟 沼瓦斯ノ噴出ハ永續的ノモノナリヤ

○政府委員磯部正春 沼瓦斯ノ噴出ハ二三年以上ハ繼續スルモノナルヘシ然レトモ要スルニ無窮
的ノモノニアラサルハ論ナシ

○委員男爵本田親濟 長野縣下諏訪地方ニ於テ使用スルモノハ既二十年ニ及ヘルモノアリ然ルニ

其ノ未盡キタルヲ見ス即甲地盡クレハ乙地代リテ之ヲ噴出スルノ狀況ナリ政府委員ノ見解如
何

○政府委員磯部正春 政府ノ調査ニ依ルモ亦其ノ然ルヲ認ム甲地盡クレハ乙地代リテ之ヲ噴出ス
ルハ他ノ地方ニ於テモ亦之カ例ヲ見ル

○委員男爵本田親濟 之ヲ要スルニ天然瓦斯ナルモノノ將來ハ全ク絶望的ニハアラサルヘシト信
ス政府ノ見解如何

○政府委員磯部正春 政府ハ沼瓦斯ノ發達ニ付テハ將來ニ向テ多少ノ希望ヲ屬ス此ノ希望アルカ
故ニ特ニ本案ニ反對ヲ表スルモノナリ何トナレハ現今漸ク發達ノ緒ニ就キツツアル沼瓦斯ヲ鑛
業法ノ支配ニ移サムカ却テ其ノ發達ヲ阻害スル虞アルヲ以テナリ又地方人民ニシテ沼瓦斯ヲ鑛
業法ノ鑛物中ニ編入スルノ出願アリト聞キ大ニ驚キテ現狀ヲ維持セラルルヤウ嘆願書ヲ提出シ
若ハ陳情シ來ルモノアラリ以テ如何ニ本案カ當事者ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スルヤヲ知ル
ニ足ルヘシ

○委員西村亮吉 政府ノ本案ニ反對スル理由ハ本案通過スルトキハ人造瓦斯營業者ニ妨害ヲ加フ
ルニ在ルカ如シ果シテ然ルカ

○政府委員磯部正春 政府ハ人造瓦斯營業者ノ利益ヲ害スルノ理由ヲ以テ本案ニ反對スルニアラス天然瓦斯使用者ノ利益ヲ害スルノ虞アルヲ以テナリ例ヘハ土地所有權ノ制限ヲ爲シ又租稅ノ負擔ヲ命スルカ如キ是ナリ

○委員西村亮吉 今ヤ我國財政困難ニ陥リ稅源ノ薄キニ苦シムノ時ニ方リ沼瓦斯ヲ鑛業法ノ支配ニ移シ之ニ課稅スルハ却テ國家ノ利益トナルヘキニアラスヤ

○政府委員磯部正春 本員ノ答辯セシ要旨ハ課稅ノ負擔ニ苦シムト言ヒシニアラス所有權ノ制限其ノ他諸般ノ關係ニ於テ瓦斯使用者ノ利益ヲ阻害スルノ虞アリト言ヒシナリ

○委員西村亮吉 千葉縣ノ人民ハ天然瓦斯ヲ鑛業法ノ鑛物中ニ編入セラレムコトヲ希望シ居レリ若本案成立ノ上影響ヲ蒙ルモノアリトセハ利害關係人ハ進テ探掘ノ特許權ヲ出願スルモ可ナラスヤ

○政府委員磯部正春 千葉縣人民ヨリ天然瓦斯探掘特許權ノ出願アリタルハ事實ナルモ之ヲ許可セハ却テ多數ナル該瓦斯使用者ニ打擊ヲ與フルヲ以テ之ニ反對ノ出願ヲ爲ス者頗多シ

○委員西村亮吉 本員ノ聞知スル所ニ依レハ千葉縣人某ハ自己ノ邸内ニ沼瓦斯ヲ噴出スヘキ箇所アリト聞キ二三百圓ノ資本ヲ投シテ之ヲ發掘シ爾來之ヲ使用スト謂フ故ニ沼瓦斯ニ鑛業法ノ保

護ヲ與フルトキハ之ヲ發掘シテ使用スル者ハ茲ニ確固タル財源ヲ得テ却テ其ノ利益ヲ享有スルニ至ルヘシト信ス如何

○政府委員磯部正春 沼瓦斯ノ噴出ハ一晝夜ノ量僅ニ五馬力ヲ以テ最高限トス即石炭一噸ノ四分ノ一ヲ使用スレハ之ニ等シキ馬力ヲ採取スルコトヲ得テ如何ニ其ノ利得ノ僅少ナルカヲ知ルニ足ルヘシ故ニ若一度之ヲ鑛業法ノ支配ノ下ニ移サムカ探掘出願ニ關スル費用並權利保存ノ爲ニ要スル負擔多大ニシテ到底收支相償フヘキモノニアラス加之上述ノ如ク土地所有權ノ制限ヲ加ヘラルルアリ其ノ他諸般ノ關係ニ於テ之ヲ鑛業法ノ鑛物中ニ編入スルノ得策ニアラサル幾多ノ理由ヲ發見スルコトヲ得ヘシ他人ノ土地所有權ヲ制限スルモ尙且他ニ之ニ優ルヘキ利益ヲ收ムルコトヲ得ル場合ニ限リ初メテ鑛業法規ノ支配ニ屬セシムルヲ以テ本則トス而シテ現行鑛業法制定ノ當時ニ於テモ既ニ以上陳述ノ理由ニ基キ沼瓦斯ヲ鑛業法ノ適用ヨリ除外シタリ以テ政府ノ意ノ存スル所ヲ了解セラレムコトヲ望ム

○委員男爵本田親濟 千葉縣茂原ニ於テ營業ノ爲天然瓦斯ヲ使用スル者アリ之ニ對シテハ如何ナル條件ノ下ニ許可ヲ與ヘシヤ政府當局者ハ此等ノ取締上ノ點ニ關シ多少ノ調査ヲ了セルモノト信ス依テ詳細ノ説明ヲ求ム

○政府委員磯部正春 千葉縣茂原ニ於テハ天然瓦斯ヲ營業的ニ使用スルモノ三種アリ即燈火用トスルモノ二箇所風呂場用トスルモノ二箇所及炊事用トスルモノ一箇所是ナリ此等ノ營業者ニ對シテハ警察上特別ノ取締ナシト信ス今後若此ノ種ノ營業ヲ爲ス者幾多生シタル場合ニ於テハ警察命令ヲ以テ取締ヲ爲スヘキハ勿論ナルヘシト雖警察上ノ事項ハ農商務大臣ノ權限内ニ在ラサルヲ以テ將來斯業ノ發展變遷ニ伴ヒ如何ナル取締方法ヲ講スルカハ今茲ニ本員ヨリ明答スルコト能ハス要スルニ取締上ノ事項ハ沼瓦スカ鑛業法ノ支配ノ下ニ屬セサル以上ハ農商務省當局者ノ關與スヘキ限ニ在ラス

○委員男爵本田親濟 沼瓦斯ノ噴出量ノ最高限ハ一晝夜ニ五馬力ナリトハ一箇所ノ井ヨリノ噴出量ナルヘシ果シテ然リトセハ今遽ニ少量ナリト論斷スルコト能ハサルヘシ故ニ數箇所ヨリノ噴出量ヲ集ムルトキハ稍大規模ナル經營ヲ爲シ得ヘク從テ需要者ヲ満足セシメ得ヘキヲ以テ將來ニ於ケル斯業ノ發達ハ期シテ待ツヘキモノアリト信ス政府ノ所見如何

○政府委員磯部正春 沼瓦斯ナルモノハ其ノ性質トシテ地下ニ多量ニ存在スルモノニアラス一方ニ於ケル存在ノ量ハ自ラ一定ノ限度アリ故ニ井ノ數ヲ増加スレハ一ノ井ヨリ噴出スル量ヲ減少スルハ理ノ當然ナリ五馬力ノ量ト言ヒシハ其ノ噴出ノ最多量ヲ舉ゲシモノニシテ其ノ他ニ在

リテハ僅ニ二三馬力内外ニ過キサレモノアリ故ニ今之ヲ鑛業法ヲ以テ保護スルトキハ特定ノ人ハ之カ爲ニ一種ノ權利ヲ取得スルモ其ノ結果トシテ今日行ハル所ノ自由使用ハ著シク制限ヲ受クルニ至ルヘシ地方ニ於ケル自由使用者ノ本案ニ反對スル理由ハ實ニ茲ニ存ス鑛業法ヲ以テ之ヲ支配スルトキハ將來發達ノ見込アリト主張スルカ如キハ容易ニ之ヲ信スル能ハサルナリ

○委員西村亮吉 政府委員ハ利害關係人ノ迷惑スルコトヲ述ヘテ本案ニ反對セラルト雖斯カル事例ハ實際ニ乏シカラス現ニ石炭探掘權ノ如キモ他ニ多少ノ犠牲トナルモノアルニ拘ラス鑛業法ヲ以テ之ヲ保護セラレシ事アリ此ノ點ニ關シテ特ニ本案ニ反對セラレルハ其ノ意ヲ得ス政府委員ノ説明ヲ望ム

○政府委員磯部正春 前ニ説明シタルカ如ク沼瓦斯ナルモノハ學說上並實驗上發達ノ見込アルニアラサルコト明ナリ之ヲ將來ノ發展窮リナキ石炭ニ比シ同一ノ鑛業政策ヲ遂行スルカ如キハ寧迂遠ノ譏ヲ免レス政府ハ我國ニ於ケル沼瓦斯ノ發達ハ之ヲ放任主義ニ俟ツノ至當ナルヲ信シ本案ニ反對ヲ表明スルモノナリ

○委員江原芳平 五馬力ノ量ヲ噴出スル時間如何
○政府委員磯部正春 一晝夜間ナリ

○委員長松岡康毅 質問ナキヲ以テ本案ヲ討議ニ付スヘキ旨ヲ宣告ス

○委員子爵鳥居忠文 本案ハ天然瓦斯使用ノ發達ニ何等ノ利益ナク却テ其ノ發達ヲ阻害スルモノナリト思考ス故ニ本員ハ本案ニ反對ス

○委員男爵本田親濟 本員ハ政府委員ノ詳細ナル説明ニ依リ今日ノ場合ニ於テハ本案ノ提出ハ其ノ理由ナキモノト認ムルヲ以テ本案ニ反對ス

○委員長松岡康毅 本案ヲ表決ニ付ス

否 決

○委員長松岡康毅 本案ハ全會一致ヲ以テ否決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後三時四十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

鑛業法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十三日

右特別委員長

貴族院議長公爵徳川家達殿

| | | | | |
|------|----|----|----|---|
| | 松 | 岡 | 康 | 毅 |
| 委員長 | | | | |
| 副委員長 | 子爵 | 鳥居 | 忠文 | 印 |

國有土地森林原野下戻法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月十八日議長ノ指名ヲ以テ國有土地森林原野下戻法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|--------|
| 伯爵 | 柳原義光 |
| 子爵 | 大宮以季 |
| 子爵 | 毛利元忠 |
| 男爵 | 關山義臣 |
| 男爵 | 青山元 |
| 男爵 | 安場末喜 |
| | 原保太郎 |
| | 岡田良平 |
| | 竹村與右衛門 |

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | |
|------|----|------|
| 委員長 | 伯爵 | 柳原義光 |
| 副委員長 | | 岡田良平 |

會議

第一回 明治四十五年三月二十三日

出席委員

| | | | | |
|-----|----|--------|------|---------|
| 委員長 | 伯爵 | 柳原義光 | 副委員長 | 岡田良平 |
| 委員 | 子爵 | 大宮以季 | 同 | 子爵 毛利元忠 |
| 同 | 男爵 | 關義臣 | 同 | 男爵 青山元 |
| 同 | 男爵 | 安場末喜 | 同 | 原保太郎 |
| 同 | | 竹村與右衛門 | | |

出席政府委員

農商務省山林局長

上山滿之進

開會 午後二時二十分

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

(參照)

國有土地森林原野下戻法中改正法律案

國有土地森林原野下戻法中左ノ通改正ス

第一條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ土地森林原野ニ於テ主產物ヲ採收シタル者ハ所有ノ事實アリタルモノト見做ス但シ他

ニ所有者アリト認ムヘキ證據アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム

第二條第四號中「分收」ヲ「收得」ニ改ム

○委員伯爵柳原義光 本案ニ對スル政府委員ノ意見如何

○政府委員上山滿之進 本案ハ衆議院ノ提出ニ係リ其ノ要旨ハ國有土地森林原野ノ主產物ヲ採收シタル者ヲ所有者ト看做シ之ニ當該國有土地森林原野ノ下戻ヲ爲サムトスルニ在リ而シテ其ノ適用ノ範圍ハ行政裁判所ノ係爭事件ニ限ラル本案ニ對シテハ政府ハ絕對ニ贊成スル能ハス今其ノ理由ヲ開陳セムニ明治三十二年國有土地森林原野下戻法ノ制定セラレテヨリ以來同法ニ基キ

下戻ヲ申請シタル件數實ニ二萬一千餘件ニ達シ此ノ内下戻ノ處分ヲ受ケタルモノハ僅ニ三百餘件ニ過キスシテ他ハ現ニ行政裁判所ニ繫屬スル百七十餘件ヲ除キ悉ク不許可ノ處分ヲ受ケタリ然ルニ本案ノ適用ハ現ニ行政裁判所ニ繫屬スル事件ニ限り此等ノ不許可ノ處分ヲ受ケタル既濟ノ事件ニ及ハス二者ニ對シ權衡ヲ得サルコト至大ナリト謂ハサルヘカラス是レ政府ノ本案ニ反對スル第一點ナリ次ニ本案ノ實質ニ付テ觀察スルニ本案ハ正ニ所有者ニアラサル者ニ對シテ下戻ヲ爲サムトスルモノナリ苟モ所有ノ事實ニシテ存セムカ國有土地森林原野下戻法ノ規定ヲ以テスルモ之カ下戻ヲ爲シ得ヘク敢テ本案ヲ俟タサルナリ提案者ハ主產物採收ノ事實アルトキハ直ニ以テ所有ノ事實アリト認定シ得ヘシトスルモ是レ著シキ誤謬ナリ毛上ノ收益ニ課稅セルカ如キハ舊藩政當時ノ書類之ヲ明證スルニアラスヤ主產物採取ノ一點ヲ以テ所有ノ事實アリト速斷スルノ不可ナルヤ寔ニ炳焉タリ是レ政府カ本案ニ反對スル第二點ナリ又本案ニシテ議會ヲ通過セムカ政府カ明治三十二年以來國有林經營ノ爲確立セル方針ハ根底ヨリ破却セラルヘシ蓋本案ノ適用ハ單ニ現ニ行政裁判所ニ繫屬スル百七十餘件ニ過キスト雖本案ニ依リテ此等ノ諸件カ下戻スヘキモノトナラハ曩ニ不許可ノ處分ヲ與ヘラレタル既濟ノ事件ハ之ヲ不問ニ付スル能ハス果シテ然ラハ國有林野ノ大部ハ之ヲ下戻ササルヲ得サルニ至リ管ニ政府ノ森林經營ノ大方針

ヲ破壞スルノミナラス國家經濟ニ不利益ヲ及ホスコト尠ナラスト謂フヘシ是レ政府カ本案ニ反對スル第三點ナリ要スルニ本案ハ其ノ趣旨ニ於テ如上ノ欠缺ヲ有スルノミナラス形式ノ上ニ於テモ亦多大ノ不備ヲ存ス是レ政府カ本案ニ反對スル所以ナリ

○委員原保太郎 政府委員ノ説明ニ依リ本案ノ趣旨及反對論ノ詳細ヲ了知セリ而シテ本員ハ政府ノ反對說ニ同意ス蓋本案ニシテ議會ヲ通過セムカ既ニ處分濟トナリタル不許可ノ事件ト雖權衡上下戻ヲ爲ササルヲ得サルニ至ルヘク從テ森林政策ノ根底ヲ破却スヘシ故ニ本案ニ對シテハ斷シテ贊成スル能ハス依テ本員ハ之カ否決ヲ望ム

○委員長伯爵柳原義光 本案ヲ表決ニ付ス

否 決

○委員長伯爵柳原義光 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

國有土地森林原野下戻法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 柳原義光

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 柳原義光印

副委員長 岡田良平印

朝鮮醫院及濟生院特別會計法案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月二十日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮醫院及濟生院特別會計法案特別委員ヲ選定スルコ

ト左ノ如シ

侯爵 大炊御門 幾磨

伯爵 正親町 實正

子爵 榎本 武憲

男爵 高木 兼寬

男爵 目賀田 種太郎

男爵 肝付 兼行

男爵 小早川 四郎

若槻禮次郎

三山 近六

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | |
|------|----|--------|
| 委員長 | 男爵 | 高木兼寬 |
| 副委員長 | 男爵 | 目賀田種太郎 |

會議

第一回 明治四十五年三月二十二日

出席委員

| | | | | | |
|-----|----|--------|------|----|--------|
| 委員長 | 男爵 | 高木兼寬 | 副委員長 | 男爵 | 目賀田種太郎 |
| 委員 | 侯爵 | 大炊御門幾鷹 | 同 | 伯爵 | 正親町實正 |
| 同 | 子爵 | 榎本武憲 | 同 | 男爵 | 肝付兼行 |
| 同 | 男爵 | 小早川四郎 | 同 | | 若槻禮次郎 |
| 同 | | 三山近六 | | | |

出席政府委員

朝鮮總督府
支那部長官

荒井賢太郎

開會 午前十時二十五分

○委員長男爵高木兼寬 開會ヲ宣告ス

(參照)

朝鮮醫院及濟生院特別會計法案

第一條 朝鮮總督府醫院、朝鮮總督府道慈惠醫院及朝鮮總督府濟生院ノ會計ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計トシ資金ヲ有シ政府支出金、資金ヨリ生スル收入、院收入、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 前條ノ政府支出金ハ年額金四拾五萬圓ヲ限トシ毎年度豫算ノ定ムル所ニ從ヒ朝鮮總督府特別會計ヨリ之ヲ繰入ルヘシ

第三條 資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄附シタル財産及歲入殘餘ヨリ成ル

第四條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但シ用途ヲ指定シタル資金ハ用途指定者ノ同意ヲ得テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第五條 職員ノ俸給、諸給、旅費、事務所費、診療醫育教養及救療ニ關スル諸費、修繕費、雜支出金、其ノ他寄附者ノ指定シタル費途ヲ以テ本會計ノ歲出トス

第六條 政府ハ毎年度本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ

提出スヘシ

第七條 毎年度豫算ニハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲豫備費ヲ設クヘシ

第八條 寄附財産ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第九條 本會計ニ於テ外國ヨリ直接ニ圖書、機械、標本、藥品及實驗用材料ノ買入ヲ爲ス場合

ニハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ明治四十五年度ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際朝鮮總督府醫院及朝鮮總督府道慈惠醫院ニ屬スル財産ハ總テ之ヲ本會計ノ資金ニ

編入スヘシ

○委員男爵高木兼寛 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員荒井賢太郎 從來朝鮮總督府醫院及朝鮮總督府道慈惠醫院ノ收入支出ハ朝鮮總督府特別會計中ニ編入シアリシカ此等醫院ノ收入モ多ク又寄附金モ之アルヲ以テ之カ會計ヲ文部省直轄ノ學校圖書館ニ於ケルカ如ク取扱ヒテ獨立ノモノタラシムルヲ至當ナリト考ヘタリ又朝鮮併

合ノ時ニ方リ朝鮮ニ於ケル孤兒棄兒盲啞者精神病者等ヲ養育治療セシムルノ目的ヲ以テ特別ノ御思召ニ依リ金三百三十五萬圓ヲ下賜セラレシカ此ノ賜金ヲ以テ濟生院ナル財團ヲ設ケ該基本金ヨリ生スル利子ニテ此ノ事業ヲ遂行スルコトト爲シタリ又朝鮮ニ於テハ日本ノ國債ヲ償還セムト企圖スル者アリ彼等ハ國債報償會ナルモノヲ組織シ寄附金ヲ募集シテ之カ事業ニ著手セムトシタルモ横領拐帶等ノ所爲續出シタルヲ以テ之ヲ解散シテ整理ヲ行ヒ十一萬餘圓ノ殘存金額ヲ擧ケテ濟生院ノ資金ニ寄附シ今ヤ同院ノ基本金ハ三百四十八萬圓ヲ算スルニ至レリ然ルニ此等ノ事業ハ民間ノ財團タル同院ノ事業ト爲スヨリハ寧官行ノモノト爲スノ優レルニ如カスト認ムルヲ以テ官設ノ朝鮮總督府濟生院ヲ設ケ財團タル濟生院ヲシテ其ノ基本金ヨリ生スル利子ヲ之ニ寄附セシメ以テ其ノ事業ヲ遂行スルコトト爲シタリ而シテ本院ハ朝鮮總督府醫院及道慈惠醫院ト其ノ性質相均シキヲ以テ相通シテ一ノ特別會計ヲ設ケテ之ヲ獨立セシムルコトトシ一方ニ於テハ不用不動産ノ賣却等ニ依リ基本金増加ノ方法ヲ採リ一方ニ於テハ政府ノ支出金ハ豫算ヲ以テ之ヲ定メ其ノ最高限ヲ四十五萬圓ト爲セリ是レ本案ノ骨子ナリ

○委員男爵目賀田種太郎 明治四十五年度ニ於ケル政府支出金額如何

○政府委員荒井賢太郎 明治四十五年度ニ於テ支出スヘキ金額ハ朝鮮總督府醫院朝鮮總督府道慈

惠醫院及濟生院ヲ通シテ四十五萬圓ナリ

○委員男爵目賀田種太郎 朝鮮總督府醫院朝鮮總督府道慈惠醫院及朝鮮總督府濟生院ノ區別ヲ問フ

○政府委員荒井賢太郎 朝鮮總督府醫院ハ京城ニ在リ道慈惠醫院ハ十三道ニ各一院ヲ置カル又濟生院ハ貧民ノ治療及盲啞者精神病者ノ治療教養等ヲ爲スモノナリ而シテ之カ事業ノ一部ハ濟生院ヨリ寄附金ヲ支出シ道慈惠醫院ニ於テ之ヲ實行シツツアリ

○委員男爵小早川四郎 本案ニ依レハ朝鮮總督府特別會計中ニ又一種ノ特別會計ヲ設クルノ觀アリ斯カル立法ノ先例アリヤ又斯カル立法ハ差支ナキヤ

○政府委員荒井賢太郎 帝國鐵道特別會計ニ於テ此ノ例アリト信ス

○委員伯爵正親町實正 濟生院ノ現狀ニ付説明ヲ求ム

○政府委員荒井賢太郎 民間ノ窮困者ヲ救濟スル爲一昨年御下賜金アリシ際之ヲ受クルカ爲ニ一財團ヲ設ケテ其ノ事業ニ著手セリ之ヲ濟生院ト爲ス濟生院ハ京城ニ於テハ孤兒院ノ孤兒九十九名ヲ引受ケテ之ヲ教育シツツアリシカ更ニ進テ盲啞部瘋癲部ノ二部ヲ設ケタリ而シテ此等ノ事業ハ政府ノ事業ト異ラサルカ故ニ官設ノ朝鮮總督府濟生院ナルモノヲ起シ財團タル濟生院ト

併存セシメ該財團ニハ專ラ資金ノ保管ヲ爲サシメ官設濟生院ヲシテ專ラ事業ヲ經營シ該財團ヨリ之カ事業ノ資金トシテ寄附金ヲ出サシム斯ノ如キハ要スルニ便宜ニ出テタルモノナリ

○委員男爵小早川四郎 朝鮮醫院及濟生院ノ豫算及寄附金ノ現狀如何

○政府委員荒井賢太郎 朝鮮總督府醫院ノ豫算ハ二十三萬八千五百五十四圓道慈惠醫院ノ豫算ハ五十九萬二千九百二圓濟生院ノ豫算ハ五萬二千六百二十圓ニシテ寄附金ハ二十七萬八千七百八十九圓ナリ

○委員若槻禮次郎 國債報償會ニ付説明アラムコトヲ求ム

○政府委員荒井賢太郎 國債報償會ハ何人ニ依リテ成立セラレタルヤヲ知ラス同會ハ非常ニ紊亂セル有様ナリシヲ以テ之ヲ調査シタルニ其ノ結果拐帶費消等ノ事實アルヲ發見セリ而シテ整理ニ依リ十一二萬圓ノ金額殘存セシヲ以テ之ヲ一般歳入トセスシテ財團濟生院ノ基金ニ繰入ルルコトトセリ

○委員男爵小早川四郎 朝鮮總督府道慈惠醫院ノ數如何

○政府委員荒井賢太郎 十三道ニ各一院宛之ヲ置ク

○委員若槻禮次郎 濟生院ノ事業ハ東京ニ設立セラレタル濟生會ノ事業ト同一ナリヤ

- 政府委員荒井賢太郎 濟生院ノ事業ハ濟生會ノモノヨリハ規模狹少ナリ最初ハ盲啞部ニ四十人ヲ瘋癲部ニ五十人ヲ養育部ニ百五十人ヲ收容スルノ見積ナリ而シテ京城孤兒院ニ收容セル孤兒ヲ引繼クコトト爲シタルカ其ノ内十五歳以上ノモノハ各自會社ニ通勤シテ生計ヲ立テシムルノ計畫ヲ爲シタルヲ以テ其ノ餘ヲ引取ルコトトセリ
- 委員若槻禮次郎 濟生院ノ資金ハ其ノ全部ヲ寄附セシムルヤ
- 政府委員荒井賢太郎 濟生院ノ事業ニ必要ナル範圍内ニ於テ基金ヨリ生スル利子ヲ寄附セシム
- 委員男爵肝付兼行 濟生院ノ理事ハ確實ナル人物ナリヤ
- 政府委員荒井賢太郎 内務部長官之ニ當リ居レリ
- 委員男爵高木兼寛 本案ニ所謂用途指定資金トハ如何ナルモノヲ謂フヤ
- 政府委員荒井賢太郎 用途ヲ指定シテ寄附ヲ爲セシ資金ナリ
- 委員男爵高木兼寛 同一ノ事業ナルニ一ヲ朝鮮總督府醫院ト爲シ他ヲ朝鮮總督府道慈惠醫院ト爲スノ理由如何
- 政府委員荒井賢太郎 朝鮮總督府醫院ハ内地ニ於ケル大學病院ノ規模小ナルカ如キモノニシテ總テノ分科ヲ設置セリ明治三十二年韓國政府ニ於テ廣濟院ナルモノヲ設ケタリシカ明治三十七

- 年ニ至リ宮内省ニ於テ赤十字病院ヲ設立セラレ後明治四十年ニ至リ二者ヲ合併シテ大韓醫院ト爲シ朝鮮皇室ヨリ救恤費ノ寄附アリ日韓人ノ區別ナク醫療ニ從事シタリ之ヲ朝鮮總督府醫院ノ前身トス又道慈惠醫院ハ韓國併合ノ際朝鮮人ニ恩惠ヲ施スノ趣意ヲ以テ各道ニ之ヲ設置スルコトトシ貧民ニ治療ヲ爲セリ十三道ニ一箇所宛アリテ道長官之ヲ管理シ其ノ規模狹小ナリ
- 委員男爵高木兼寛 二者ハ大小ノ程度ニ差アリトスルモ其ノ性質ハ同一ナルカ如シ又各道ノ慈惠醫院ハ恐ラクハ貧富ヲ區別セシテ治療ヲ爲スヘシ然ラハ名稱中慈惠ノ文字ヲ付スルハ不穩當ニアラスヤ既ニ内地各縣ニ於テモ縣立病院ノ名稱ヲ付シタルヲ以テ之ヲ見レハ慈惠ナル文字ヲ削除スルモ差支ナカラム
 - 政府委員荒井賢太郎 必シモ慈惠ノミニ限ラサルヲ以テ此ノ名稱ハ之ヲ固執スヘキヤ否ハ今確答スル能ハス
 - 委員男爵高木兼寛 醫師ノ養成ハ何レノ醫院ニテ之ヲ爲スヤ
 - 政府委員荒井賢太郎 醫學校ハ朝鮮總督府醫院ニ附屬ス
 - 委員男爵高木兼寛 朝鮮人タル學生ニハ無料ニテ教授スルヤ
 - 政府委員荒井賢太郎 然リ

- 委員男爵高木兼寛 朝鮮人モ亦日本人ナリ然ルニ無料ニテ教授スルハ如何ナル理由ニ出ツルカ朝鮮人ト雖富裕ナル者ニ對シテハ授業料ヲ徵收シテ差支ナキニアラスヤ
- 政府委員荒井賢太郎 現今ハ無料ナリト雖將來ハ授業料ヲ徵收スルモ差支ナカラムト信ス
- 委員男爵高木兼寛 看護婦ハ朝鮮總督府醫院ニテ養成シ之ヲ各道ニ派出スルヤ
- 政府委員荒井賢太郎 官費ヲ以テ之ヲ養成ス但シ道慈惠醫院ニ於テハ公費ヲ以テ養成シツツアリ
- 委員男爵高木兼寛 第一條ニ於ケル慈惠ナル文字ハ之ヲ削除スルモ差支ナキヤ
- 政府委員荒井賢太郎 直ニ之ヲ削除スルハ困難ナリ
- 委員男爵高木兼寛 朝鮮總督府醫院ハ資金ヲ有スルヤ
- 政府委員荒井賢太郎 資金ヲ有セス資金ハ總督府之ヲ支出ス
- 委員伯爵正親町實正 第二條ノ政府支出ハ何時ヨリ之ヲ實行スルコトトナルヤ
- 政府委員荒井賢太郎 本案ノ成立後ニアラサレハ之ヲ實施スル能ハス
- 委員男爵高木兼寛 他ニ質問ナキモノト認メ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長男爵高木兼寛 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

朝鮮醫院及濟生院特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

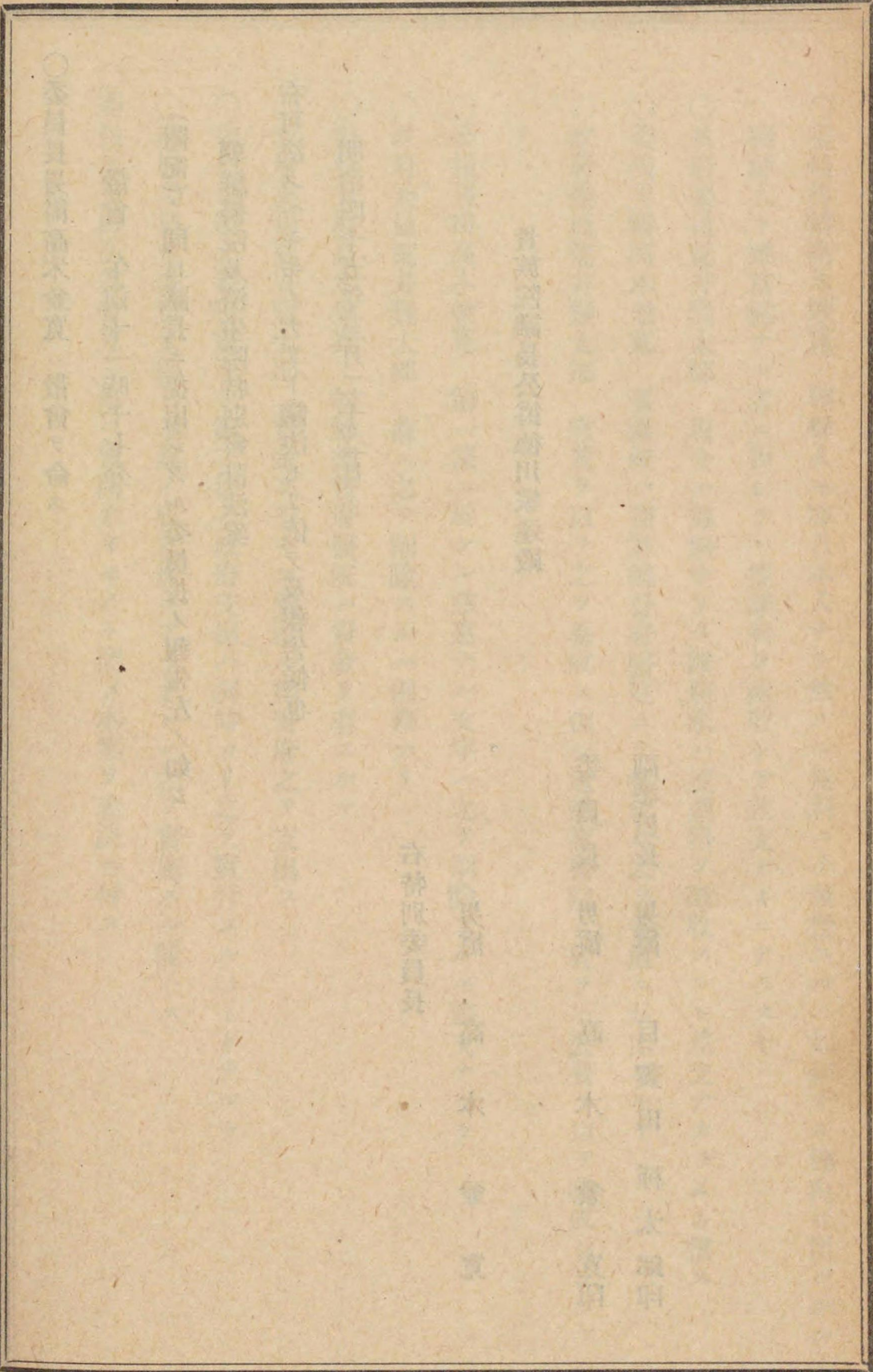
右特別委員長

男爵 高木 兼 寛

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 男爵 高木 兼 寛印

副委員長 男爵 目賀田 種太郎印



樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月二十日議長ノ指名ヲ以テ樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 公爵 | 二條基弘 |
| 伯爵 | 柳原義光 |
| 子爵 | 鳥居忠文 |
| 子爵 | 伊集院兼知 |
| 子爵 | 前田利定 |
| 男爵 | 野田裕通 |
| 男爵 | 阪井重季 |
| | 原保太郎 |
| | 藤田四郎 |

委員長及副委員長選舉

樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案特別委員會

○明治四十五年三月二十二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 柳原義光
副委員長 子爵 鳥居忠文

會議

第一回 明治四十五年三月二十二日

出席委員

| | | | | | |
|-----|----|-------|------|----|------|
| 委員長 | 伯爵 | 柳原義光 | 副委員長 | 子爵 | 鳥居忠文 |
| 委員 | 子爵 | 伊集院兼知 | 同 | 子爵 | 前田利定 |
| 同 | 男爵 | 野田豁通 | 同 | 男爵 | 阪井重季 |
| 同 | | 原保太郎 | 同 | | 藤田四郎 |

出席政府委員

| | |
|--------|-------|
| 拓殖局部長 | 宮尾舜治 |
| 樺太廳長官 | 平岡定太郎 |
| 樺太廳事務官 | 竹内友二郎 |

開會 午前十時二十分

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

(參照)

樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案

第一條 樺太ニ於テハ主務大臣ノ指定シタル區域内ノ石炭採掘ニ付採掘料ヲ徵收ス

前項ノ區域内ニ於ケル石炭ノ採掘ハ其ノ採掘料ヲ競争入札ニ付シ落札者ニ之ヲ許可ス
競争入札加入者ノ資格及競争入札ノ方法ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル採掘ノ許可ニ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ニ依リテ生スル鑛業權者ノ義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

第三條 鑛業權者採掘料ヲ完納セス又ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキハ行政官廳ハ其ノ鑛業權
ヲ取消スコトヲ得

第四條 採掘料ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法及明治四十年法律第三十四號ヲ準用ス但シ先取特
權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際第一條ノ區域内ニ於ケル國ノ石炭採掘區域ニ付テハ國ハ其ノ鑛業權ヲ有ス

○委員伯爵柳原義光 質問ニ先チ政府委員ヨリ本案提出ノ理由ヲ詳述セラレムコトヲ望ム

○政府委員宮尾舜治 樺太ニ於ケル炭田ノ地域ハ南北中ノ三大部ニ分レ何レモ廣大ナルモノナルカ就中中部炭田最廣クシテ產額亦之ニ伴ヒ品質良好ナリ而シテ此等三部ノ炭田ヨリ產出スヘキ石炭ノ總額ハ實ニ五億二千餘萬噸ト推算セラレ之カ採掘ニ付テハ從來二箇ノ制度行ハレタリ即一ハ所謂賣山主義ニシテ政府發見ノ炭田ハ總テ之ヲ封鎖シ之ヲ開放スルニ當リテハ競賣ニ依ルモノニシテ他ハ個人ノ發見ニ基キテ採掘ノ許可ヲ與フルノ制度ナリ然ルニ政府ノ發見ニ係ル炭田ヨリ採掘スルニ方リ賣山主義ニ依ルトキハ炭田ノ競賣ヲ受ケ石炭ノ採掘ヲ爲サムトスル當業者ハ一時ニ多額ノ資本ヲ投下セサルヘカラサルカ故ニ進テ競賣ニ應スルヲ躊躇スルノ事實アリ又競落ヲ得テ採掘ニ從事スル者ハ採掘ニ關シ何等制限ノ存セサルヲ以テ所謂狸掘ノ弊ヲ醸シ炭業經濟上ノ利益ナルコト尠少ニアラス是レ本案ヲ提出シテ一面賣山主義ヲ排シテ採掘料徴收ノ制度ニ改メ以テ當業者ノ石炭採掘ヲ懲慝スルト共ニ他面鑛業權ノ行使ニ制限ヲ附シ以テ如上ノ弊害ヲ矯メムトスル所以ナリ然レトモ本案ニ因リ開放スル炭田ハ政府ノ發見ニ係ルモノノ一部

分ニ過キス其ノ最大部分ヲ占ムル中部炭田ハ依然之ヲ封鎖シテ他日内地ニ於ケル炭業政策ノ改善ヲ俟テ最理想的ニ又最經濟的ニ之カ採掘ヲ企圖セムトス要スルニ本案ヲ提出セルハ從來ノ賣山主義ノ弊ヲ避ケ當業者ノ石炭採掘ヲ懲慝スルト共ニ樺太ニ於ケル石炭ノ需要ハ樺太ニ於テ產出スルモノヲ以テ之ニ充テ樺太開發ノ一端ニ資セムトスルニ外ナラス

○委員男爵野田豁通 採掘料ハ一箇年或ハ六箇月ト謂フカ如ク期間ヲ限リ金額ノ豫定ヲ爲シテ之ヲ徴收スルカ將又現ニ採掘セル石炭ノ實量ニ依リテ之ヲ徴收スルカ

○政府委員宮尾舜治 採掘料ハ實量ニ依リテ之ヲ徴收ス

○委員男爵野田豁通 衆議院ニ於ケル本案ノ委員會會議錄ヲ見タルニ樺太ニ於テハ雜種稅ト稱スル鑛區稅ノ如キモノヲ徴收スト謂フ果シテ然ラハ本案ノ規定ニ依リ更ニ採掘料ヲ徴收スルトキハ租稅ノ負擔ハ内地ニ比較シテ重キニ失セシヤ又樺太ノ石炭ト北海道炭礦株式會社ノ石炭トノ函館迄ノ運賃如何

○政府委員宮尾舜治 樺太ニ於テハ鑛業稅ヲ課セスト雖之ニ類似スル雜種稅ヲ徴收ス而シテ其上ニ採掘料ヲ徴收スルトキハ合計ニ於テ内地ノ鑛業稅ヨリ多額ニ上ルヘキモ炭山ハ政府ノ發見ニ係リ施設又進捗セルヲ以テ敢テ不公平ニアラス運賃ニ付テハ樺太ハ海路ノ長サ及港灣ノ設備

ニ於テ北海道ヨリハ不利ノ地位ニ在リト雖石炭ノ品質良好ナルヲ以テ北海道炭ニ比シテ遜色ナキヲ信ス

○委員男爵野田豁通 本案ハ採掘料ヲ競争入札ニ依テ決スルノ規定ナルモ競争入札ハ其名ハ美ナリト雖惡弊少カラス本員ノ知ル所ニ依レハ或ハ入札者ノ結託ニ依リ或ハ壯士輩ノ強迫ニ依リ當ニ公平ナル入札ヲ爲ス能ハサルノミナラス著實ナル入札者ヲ得ルコト難ク却テ多數ノ不徳漢ヲシテ貪慾ヲ逞シウセシムルノ例ニ乏シカラス樺太ニ於ケル競争入札ノ現狀如何又本案ニハ單ニ競争入札ト規定スルモ之ハ普通競争入札ヲ意味スルヤ或ハ指名競争入札ノ意ナルヤ

○政府委員平岡定太郎 競争入札ニ伴フ惡弊ハ樺太ニ於テモ亦行ハル然カモ本案ニ於テ此ノ制度ヲ採用セルハ當局者ニ於テ此ノ弊ヲ防止シ得ヘシト信シタレハナリ其ノ方法タルヤ一面ニ於テハ保證金ヲ比較的多額ニ徵收シ以テ入札ノ眞意ナキ所謂日當取リノ輩ヲ排斥スルト共ニ他面ニ於テハ入札者ノ資格ヲ制限シ一定ノ資産ヲ有シ且二箇年以上採炭業ニ從事シタルコトヲ要スト爲シ弊害ヲ未發ニ防クノ策ヲ取ルニ在リ又入札ノ方法ハ指名入札ニアラスシテ普通入札ナリ

○委員藤田四郎 採掘料ハ豫定ヲ以テ採掘前ニ之ヲ徵收スルヤ又本案附則ニ第一條ノ區域内ニ於ケル國ノ石炭採掘區域ニ付テハ國ハ鑛業權ヲ有ストノ規定存ス此ノ規定ヲ置カサルトキハ國ハ

鑛業權ヲ有セストノ意味ナルカ

○政府委員平岡定太郎 採掘料ノ徵收ハ採掘ノ實量ニ依テ決ス採掘前豫定ヲ以テ徵收スルモノニアラス又附則ニ國ニ鑛業權ノ存スル旨ヲ規定セルハ鑛業權ハ鑛業法上許可ヲ俟テ初メテ發生スル財産權ニシテ國ト雖特別ノ明文アルニアラサル以上ハ許可ニ基カスシテ此ノ權利ヲ有スル能ハストノ議論一般ニ認容セララルルニ至レルヲ以テ明文ヲ以テ特ニ國ニ鑛業權ノ存スル旨ヲ規定セシナリ

○委員藤田四郎 採掘料ヲ採掘シタル實量ニ依リ徵收スルトキハ鑛業權者ハ自己ノ欲スル分量ヲ採掘シ他ヲ顧ミサルニ至ルヘク然カモ當局者ハ鑛業權者ニ對シ採掘ノ要請ヲ爲スノ道ナシ斯ノ如キハ炭業經濟上宜シキヲ得サルノ結果ヲ生スヘシト信ス政府委員ノ所見如何

○政府委員平岡定太郎 樺太ニ於テハ内地ニ於ケルカ如ク鑛區稅及鑛產稅ノ存スルナシト雖鑛區稅ニ類似セル雜種稅ナルモノアリ石炭採掘ノ實量如何ニ拘ラス採炭業者ニ課稅スルヲ以テ貴問ノ如キ弊害ヲ矯正シ得ヘシト信ス殊ニ今回競争入札ニ付スル鑛區ハ僅ニ一部分ニ止ルヲ以テ鑛業權者ハ採掘ヲ爲サスシテ捨置クカ如キコトナシト信ス

○委員藤田四郎 本法施行後尙雜種稅ヲ徵收スルヤ政府既ニ採掘料ヲ徵收シテ鑛業權ヲ移轉シタ

ル以上更ニ雜種稅ヲ徵スルハ違法ニアラサルカ

○政府委員平岡定太郎 明治四十年法律第二十一號及明治四十四年閣令第五號中ニ雜種稅徵收ノ規定存在シ封鎖區域ナルト否トヲ問ハス之ヲ徵收スルモノナルヲ以テ決シテ違法ニアラス

○委員男爵野田豁通 採掘料ヲ實量ニ依リ一箇年後ニ徵收スルモノトセハ未納ノ場合ニ於ケル處分如何相當ノ保證金ニテモ徵收シ置クヤ

○政府委員平岡定太郎 保證金ヲ納付セシムルハ鑛業權者ノ苦痛ヲ甚シカラシメ採炭ヲ懲慝スル所以ニアラサルヲ以テ之ヲ納付セシメス然レトモ既ニ採炭ニ從事スル以上ハ少カラサル固定資本ヲ投下シ之カ設備ヲ爲ササルヘカラス若採掘料ヲ完納セサル場合ニハ本案第三條ノ規定ニ依リ鑛業權ヲ取消サルルニ至リ設備ニ投セル資本ヲ損失セサルヘカラサル結果ヲ來スヲ以テ間接ニ貴問ノ如キ弊害ヲ防止シ得ヘシト信ス

○委員男爵野田豁通 採掘料徵收ノ期間ヲ短縮シテハ如何之ヲ短縮スルコトヲ得サルヤ

○政府委員平岡定太郎 採掘料徵收ノ期間ハ一箇年ノ終ト決定セル次第ニアラス一年ヲ二期ト爲スカ三期ト爲スカハ未定ナリ要ハ鑛業權者ノ便宜ヲモ斟酌シタル上中庸ヲ得ルヤウ決スル存念ナリ

○委員藤田四郎 封鎖區域外ノ鑛山ニ於テ鑛業ニ從事スル者ヨリハ鑛區稅ニ當ル雜種稅ヲ徵收スルモ鑛產稅ニ當ル租稅ハ徵收セサルカ

○政府委員平岡定太郎 然リ樺太ニ於テハ鑛產稅ニ代ルヘキ租稅ハ之ヲ徵收セス採掘料ヲ徵收スルハ其ノ鑛區カ樺太廳ノ發見ニ係ルト共ニ測量製圖等ノ費用ヲ投セシカ故ナリ

○委員子爵前田利定 本案第一條ニハ採掘ト規定シ第二條及第三條ニハ鑛業權ト明定ス其ノ實ニ於テハ差支ナキカ如シト雖既ニ採掘モ亦鑛業權行使ノ一タル以上ハ第一條ノ文字ヲ改メ他ノ條文ト均シク鑛業權ト明規スルコト法文ノ體裁ヲ得ヘシト信ス如何

○政府委員宮尾舜治 樺太ニ於テハ鑛業權ハ樺太鑛業令ナル勅令ニ因テ發生シ敢テ法律ニ因ルノ要ヲ見ス然レトモ該勅令ニ因リ發生セル權利ハ鑛業法上ノ鑛業權ナリ而シテ本案第一條ハ鑛業權ノ發生ニ關スルヲ以テ鑛業權ナル文字ヲ用井ス第二條及第三條ハ既ニ成立セル鑛業權ニ關スルヲ以テ此ノ文字ヲ用ウ是レ二者區別ノ存スル所以ナリ

○委員長伯爵柳原義光 本案ヲ表決ニ付ス

可 決

○委員長伯爵柳原義光 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

伯爵 柳原義光

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 柳原義光印

副委員長 子爵 鳥居忠文印

朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月二十日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- 侯爵 花山院親家
- 伯爵 川村鐵太郎
- 子爵 五辻治仲
- 男爵 石黒忠憲
- 小牧昌業
- 谷森眞男
- 木場貞長
- 武石橘次
- 佐藤友右衛門

朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案特別委員會

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | |
|------|----|-------|
| 委員長 | 侯爵 | 花山院親家 |
| 副委員長 | 伯爵 | 川村鐵太郎 |

會議

第一回 明治四十五年三月二十二日

出席委員

| | | | | | |
|-----|----|-------|----|----|--------|
| 委員長 | 侯爵 | 花山院親家 | 委員 | 子爵 | 五辻治仲 |
| 同 | 男爵 | 石黒忠憲 | 同 | | 小牧昌業 |
| 同 | | 谷森真男 | 同 | | 木場貞長 |
| 同 | | 武石橋次 | 同 | | 佐藤友右衛門 |

出席政府委員

| | |
|-------|-----|
| 拓殖局部長 | 江木翼 |
|-------|-----|

開會 午前十一時二十五分

○委員長侯爵花山院親家 開會ヲ宣告ス

(參照)

朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案

第一條 朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者及其ノ遺族ハ本法ニ依リ退隱料及遺族扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ハ第一條、第二條、第九條、第二十條及第二十一條ヲ除クノ外前條ノ學校職員及其ノ遺族ニ之ヲ準用ス但シ同法中文部大臣ノ職務ハ朝鮮總督、府縣知事ノ職務ハ道長官之ヲ行ヒ同法第十條及第十六條中府縣郡市町村トアルハ俸給ヲ支辨スル團體ニ該當ス

第三條 明治二十九年法律第十三號第二條及第四條ノ三ノ規定ハ之ヲ第一條ノ學校職員ニ準用ス

第四條 第一條ノ學校職員ノ在官年月數ト文官判任以上ノ教官、教育事務ニ從事スル文官、文官判任以上ノ待遇ヲ受クル學校及圖書館ノ職員並小學校本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル公

立幼稚園長及保母ノ在官又ハ在職ノ年月數トハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法、在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號、明治三十三年法律第七十七號、明治四十一年法律第三十五號及本法ニ依ル退隱料、扶助料及扶助金ノ支給ニ關シ相互通算ス
前項ノ規定ニ依リ通算スルコトヲ得ヘキ官職ノ種類及通算ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第五條 明治四十年法律第四十八號ハ之ヲ第一條ノ學校職員ニ準用ス
前條ノ規定ニ依リ文官判任以上ノ教官又ハ教育事務ニ從事スル文官ノ在官年月數ヲ第一條ノ學校職員ノ在職年月數ニ通算スル場合ニ於テハ其ノ朝鮮ニ在勤シタル年月數ハ之ヲ第一條ノ學校職員ノ朝鮮ニ於ケル在勤年月數ト看做ス

附則

本法ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ國庫納金ニ關スル規定ヲ除クノ外本法施行前退官シタル者又ハ本法施行前死亡シタル者ノ遺族ニモ之ヲ適用ス

朝鮮ニ於ケル在外指定學校職員ノ明治四十年四月二十三日以後ノ在職ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ第一條ノ學校職員ノ在官ト看做ス
○委員侯爵花山院親家 本案提出ノ理由ニ付政府委員ノ説明アラムコトヲ求ム
○政府委員江木翼 本案提出ノ理由ハ大體ニ於テ左ノ二點ニ歸著ス即一ハ舊韓國ニ於テハ我政府ハ居留民團若ハ學校組合ノ設立シ經營スル各學校ヲ在外指定學校ト爲シ其ノ職員ニ對シテハ恩給ノ關係ニ於テハ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ相當ノ保護ヲ加ヘ來リシモ併合後ノ今日ニ於テハ朝鮮ニ於ケル以上ノ種類ニ屬スル學校ヲ特ニ在外指定學校トシテ取扱フカ如キハ矛盾ノ嫌アルヲ以テ本法ニ依リ單ニ朝鮮ニ於ケル學校職員ニ向ヒ退隱料及遺族扶助料ヲ給スルコトト爲シ以テ之カ調和ヲ謀ラムトスルニ在リ又其ノ二ハ舊韓國時代ニ於テ公共團體等即道、郡、面ニ於テ經營セラレタル學校ハ二種ノ財團法人ノ如キ性質ヲ有シ學田ト稱スルカ如キ學校財產ヲ有シ若ハ寄附等ヲ其ノ財源ニ仰キ以テ其ノ存在ヲ維持シ來リタルモノナリ而シテ舊韓國政府ニ於テハ官立學校ハ勿論上述ノ學校職員ニ對シテモ何等恩給制度ヲ設ケザリシヲ以テ併合後ノ今日ニ於テハ此等ノ學校ノ職員ニ對シテモ亦從來我在外指定學校職員ニ與ヘタルト同一ノ恩典ニ浴セシムルノ必要アルヲ以テ本法ニ依リ其ノ目的ヲ達セムトスルニ在リ而シテ本

案ハ朝鮮ニ於ケル學事ノ普及ヲ圖ル上ニ於テ寔ニ必要缺クヘカラサル要件ヲ規定スルモノナリ是レ政府ニ於テ本案ヲ提出シタル所以ナリ

○委員男爵石黑忠憲 本案ノ規定ニ係ル遺族扶助料ハ本法施行前ニ死亡シタル者ノ遺族ニ對シテモ之ヲ支給スルモノナリヤ

○政府委員江木翼 本案ノ規定ハ本法施行前ニ死亡シタル者ノ遺族竝本法施行前ノ退職者ト雖權利享有ノ條件ヲ具備スル者ニ對シテハ其ノ效果ヲ及ホスモノナリ

○委員男爵石黑忠憲 果シテ然ラハ何時ヨリノ死亡者ノ遺族竝退職者ニ對シテ遺族扶助料又ハ退隱料ヲ支給スルカ

○政府委員江木翼 其ノ時期ハ勅令ヲ以テ之ヲ規定ス

○委員男爵石黑忠憲 本案ノ規定ニ依リ保護セララルル場合ト官吏恩給法ニ依リ保護セララルル場合ト相抵觸スルトキハ如何

○政府委員江木翼 權利者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ支給ス

○委員木場貞長 本案ノ規定ニ依リ保護セムトスル學校職員ニ對シテハ加俸ナルモノハ存セスヤ
○政府委員江木翼 加俸ノ制度ハ存在スルモ斯ノ如キ獎勵法ノミニテハ保護ノ目的ヲ達スルニ十

分ナラス是レ本案ノ提出ヲ見タル所以ナリ

○委員木場貞長 加俸ハ將來何年後迄之ヲ繼續セララルルカ朝鮮今日ノ狀態ニ於テハ臺灣ニ於ケルカ如ク危險ノ襲來頻繁ナラスト考フ果シテ然ラハ朝鮮ニ奉職スル者ニ對シ臺灣其ノ他ノ危險地ニ於ケル者ト同様ニ保護ヲ與フルハ却テ加俸制度ヲ設ケタルノ趣旨ニ反セサルヤ如何

○政府委員江木翼 加俸制度ヲ設ケタル趣旨ハ内地在勤者ニ比シ危險ナル地、若ハ生命財產ノ不安固ナル土地又ハ風土病ノ虞アル土地ノ在勤者ヲ特別ニ保護スルニ在リ而シテ朝鮮ノ現狀ハ臺灣ノ蕃地ニ於ケルカ如ク危險大ナラスト雖風土病ノ如キハ尙怖ルヘキモノアリ之ヲ厚ク保護スルニアラサレハ勤續者ノ數ヲ減シ朝鮮開發ノ目的ヲ達スル上ニ於テ支障尠カラス從テ容易ニ加俸制度ノ廢止ハ之ヲ行フコト能ハス且之カ廢止ノ時期ノ如キモ今茲ニ明言スルコトヲ得ス

○委員木場貞長 朝鮮ニ於ケル公立學校ハ内地ノ公立學校ト全然其ノ性質ヲ同シウスルカ

○政府委員江木翼 内地ニ於ケル公立學校ト朝鮮ニ於ケル公立學校トハ其ノ性質全然同一ナリ經費負擔ノ主體ハ何レモ公共團體ニシテ國家ハ唯特別會計ヲ以テ之ヲ補助スルニ過キス

○委員佐藤友右衛門 本法ノ恩典ニ浴スル者ハ朝鮮全般ノ學校職員ナリヤ

○政府委員江木翼 朝鮮ニ於ケル公立學校ノ職員ノミナリ

○委員佐藤友右衛門 舊韓國時代ニ於ケル財團法人的ノ學校ハ現今盡ク之ヲ公立學校ト爲シタリ

○政府委員江木翼 然リ盡ク之ヲ公立學校ト爲セリ

○委員佐藤友右衛門 現今朝鮮ニ於ケル公立學校ノ總數如何

○政府委員江木翼 普通學校ハ百三十校ニシテ實業學校ノ數ハ七校ナリ而シテ前者ハ明治四十四年三月ニ調査セル所ニ係リ後者ハ同四十四年一月ノ調査ニ屬ス

○委員佐藤友右衛門 現今ニ於ケル教員ノ數幾許ナリヤ

○政府委員江木翼 内地人ノ教育ヲ目的トスル小學校ノ教員數ハ正教員三百九十人、朝鮮人ノ教育ヲ目的トスル普通學校ノ教員數ハ二百四十五人ナリ而シテ内地人ノ教育ヲ目的トスル學校ノ成績ハ頗優良ニシテ諸般ノ設備モ亦著シク完備セリ而シテ就學兒童數ヲ百分比例ニ依リ之ヲ求ムレハ内地人ヲ教育スル學校ニテハ九十七人朝鮮人ヲ教育スル學校ニ在リテハ五十一人ナリ朝鮮人ノ教育ヲ目的トスル普通學校ノ成績ハ頗劣等ナルカ是レ一ニ戶口調査ノ不完全ニシテ正確ナル學齡兒童數ヲ知ルニ苦シムノ結果ニ歸ス斯ノ如キハ將來大ニ改良刷新ヲ加フヘキ要點ナリト信ス之ヲ要スルニ朝鮮人ノ教育ハ寧臺灣人ノ教育ニ比シ劣等ナリ以テ朝鮮ニ於ケル普通教育

ノ一日モ忽諸ニ付スヘカラサルヲ知ルニ足ルヘシ

○委員佐藤友右衛門 退隱料ハ一時ニ之ヲ支給スルモノナリヤ

○政府委員江木翼 退隱料ハ年賦ヲ以テ終身之ヲ支給シ退職給與金ハ一時ニ支給ス

○委員長侯爵花山院親家 質問ナキヲ認メ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長侯爵花山院親家 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ告ケ散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十二日

右特別委員長

侯爵 花山院親家

朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案特別委員會

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 侯爵 花山院親家印
副委員長 伯爵 川村鐵太郎印

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月二十日議長ノ指名ヲ以テ明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- 男爵 小畑美稻
- 子爵 入江爲守
- 男爵 沖原光孚
- 男爵 原口兼濟
- 男爵 村上敬次郎
- 男爵 外松孫太郎

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、
 明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及
 豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | |
|------|----------|
| 男爵 | 平野長祥 |
| 西村亮吉 | 本間金之助 |
| 委員長 | 男爵 村上敬次郎 |
| 副委員長 | 男爵 外松孫太郎 |

會議

第一回 明治四十五年三月二十二日

出席委員

| | | | |
|-----|----------|------|----------|
| 委員長 | 男爵 村上敬次郎 | 副委員長 | 男爵 外松孫太郎 |
| 委員 | 子爵 入江爲守 | 同 | 男爵 沖原光孚 |
| 同 | 男爵 原口兼濟 | 同 | 男爵 平野長祥 |
| 同 | 西村亮吉 | 同 | 本間金之助 |

出席政府委員

| | |
|----------------|----------|
| 拓殖局部長 | 江木翼 |
| 朝鮮總督府 度支部長官 | 荒井賢太郎 |
| 臺灣總督府 財務局長 | 中川友次郎 |
| 外務次官 | 男爵 石井菊次郎 |
| 外務書記官 | 清水精三郎 |
| 內務書記官 | 大谷靖 |
| 大藏次官 | 橋本圭三郎 |
| 大藏省主計局長 | 市來乙彦 |
| 大藏書記官 | 磯野定次郎 |
| 陸軍主計監 | 辻村楠造 |
| 陸軍一等主計正 | 廣瀨正徳 |
| 海軍主計大監 | 宇都宮鼎 |
| 司法書記官 | 柏原與次郎 |

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、
 明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及
 豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、
 明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及
 豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

文部省參事官 松浦鎮次郎
 農商務書記官 岡本英太郎
 遞信省經理局長 町田重備

○委員長男爵村上敬次郎 開會ヲ宣告ス

(附記一) 議案浩澣ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

(附記二) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長男爵村上敬次郎 散會ヲ命ス

散會 午後三時四十九分

第二回 明治四十五年三月二十三日

出席委員

委員長 男爵 村上敬次郎 副委員長男爵 外松孫太郎
 委員 子爵 入江爲守 同 男爵 沖原光孚
 同 男爵 原口兼濟 同 男爵 平野長祥

出席政府委員 西村亮吉

朝鮮總督府 度支部長官 荒井賢太郎
 臺灣總督府財務局長 關東都督府事務官 中川友次郎
 樺太廳長官 外務書記官 蠟山長治郎
 外務書記官 內務書記官 平岡定太郎
 大藏次官 大藏省主計局長 清水精三郎
 大藏書記官 陸軍主計監 橋本圭三郎
 陸軍主計監 陸軍一等主計正 磯野定次郎
 海軍主計大監 廣瀨正德
 宇都宮 鼎

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、
 明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及
 豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、
明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及
豫算外支出ノ件、承諾ヲ求ムル件、特別委員會

開會 午後三時十七分

○委員長男爵村上敬次郎 開會ヲ宣告ス

○委員長男爵村上敬次郎 散會ヲ命ス

散會 午後四時五十六分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

一 明治四十三年度豫備金支出ノ件

一 明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

一 明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件

一 明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十三日

右特別委員長

男爵 村上敬次郎

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 男爵 村上敬次郎印

副委員長 男爵 外松孫太郎印

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、
明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及
豫算外支出ノ件、承諾ヲ求ムル件、特別委員會

明治四十三年度豫備金支出ノ件、明治四十三年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、
 明治四十三年度特別會計豫備金支出ノ件、明治四十三年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及
 豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

刑事訴訟法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月二十日議長ノ指名ヲ以テ刑事訴訟法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ
 如シ

- | | |
|----|-------|
| 伯爵 | 島津忠鷹 |
| 子爵 | 大久保忠順 |
| 子爵 | 鍋島直虎 |
| 子爵 | 本多實方 |
| 男爵 | 眞田幸世 |
| 男爵 | 長松篤業 |
| | 奥山政敬 |
| | 安廣伴一郎 |
| | 本間金之助 |

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | |
|------|----|------|
| 委員長 | 伯爵 | 島津忠麿 |
| 副委員長 | | 奥山政敬 |

會議

第一回 明治四十五年三月二十三日

出席委員

| | | | | | |
|-----|----|-------|------|------|-------|
| 委員長 | 伯爵 | 島津忠麿 | 副委員長 | 奥山政敬 | |
| 委員 | 子爵 | 大久保忠順 | 同 | 子爵 | 鍋島直虎 |
| 同 | 子爵 | 本多實方 | 同 | | 本間金之助 |

出席政府委員

司法省參事官

豐島直通

開會 午前十一時二十分

○委員長伯爵島津忠麿 開會ヲ宣告ス

(參照)

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第三百二十六條第一項中「第二百二十五條」ノ下「及ヒ」ヲ削リ「第二百二十八條」ノ下ニ「及ヒ」第三百二十二條」ヲ加フ

○委員伯爵島津忠麿 本案ニ付政府委員ノ意見ヲ陳述セラレムコトヲ求ム

○政府委員豐島直通 本案ハ刑事訴訟法中ニ鑑定ノ囑託ヲ規定セムトスルノ案ナリ現行民事訴訟法ニハ鑑定ノ囑託ヲ爲シ得ル規定アレトモ刑事訴訟法ニハ唯其ノ第三百二十二條ニ證人訊問ノ囑託ノ規定アルノミニシテ鑑定ノ囑託ヲ爲シ得ルノ規定ナシ依テ本案ハ同條ノ規定ヲ鑑定人ニ準用スルノ趣意ナリ政府ハ目下刑事訴訟法改正ノ目的ヲ以テ訴訟法ノ全般ニ互リ根本ヨリ改正スヘキ點ヲ調査シツツアレトモ其ノ事業ハ容易ニアラス然ルニ鑑定ノ囑託ノ規定ナキカ爲裁判所ハ常ニ不便ヲ感スルヲ以テ政府ハ本案ニ同意ス

○委員奥山政敬 鑑定ノ囑託ヲ必要トスル場合ニ於テモ現今ニテハ受訴裁判所ニ一鑑定人ヲ呼出シツツアリヤ

○政府委員豐島直通 然リ受訴裁判所ニ鑑定人ヲ呼出シテ鑑定ヲ爲サシム

○委員奥山政敬 鑑定ノ囑託ヲ要スル場合ハ多クハ之ナカルヘシ如何

○政府委員豊島直通 鑑定ノ囑託ヲ要スル場合ハ多ク之アリ而シテ鑑定ヲ爲スコトヲ得ル専門家少キヲ以テ多クハ帝國大學ノ教授ヲシテ鑑定セシム斯カル場合ニ帝國大學ト受訴裁判所ト遠隔スルトキハ囑託ノ便法開カルルニ於テハ帝國大學所在地ノ區裁判所又ハ地方裁判所ノ豫審判事ニ囑託シテ鑑定ヲ爲スノ便宜ヲ有スルニ至ルヘシ

○委員子爵大久保忠順 刑事訴訟法ノ改正ニ付テハ目下調査中ナリヤ

○政府委員豊島直通 刑法ノ改正ニ伴ヒ刑事訴訟法ノ改正ヲ必要トシ之カ調査ヲ爲シツアルモ其ノ事業タルヤ容易ニアラサルヲ以テ現今ハ刑法施行法ニ依リテ調和ヲ謀リ居レリサレト近キ將來ニ於テ改正ヲ遂クルコトヲ期ス

○委員子爵本多實方 次ノ帝國議會ニハ刑事訴訟法改正案ノ提出セラルヘキ豫定ナリヤ如何

○政府委員豊島直通 根本ノ手續ニ付種種ノ問題アルヲ以テ急ニ調査ヲ完了スルコト能ハス次期ノ帝國議會ニ提出スルヲ得ルヤ否ヤ不明ナリ

○委員子爵鍋島直虎 昨年ニ於テ鑑定人ヲ要シタル場合幾何アリシヤ

○政府委員豊島直通 鑑定人ニ鑑定ヲ命シタル場合ノ表ハ今之ヲ持參セサレトモ追テ貴覽ニ供ス

ヘシ

○委員子爵鍋島直虎 其レニハ及ハス鑑定ノ必要アルハ如何ナル事項ナルカ

○政府委員豊島直通 筆跡印影ニ多シ又殺人事件ニ關シテハ被告人ノ精神状態ヲ鑑定スルコト多シ

○委員奥山政敬 本案ハ適當ノモノト信スルヲ以テ本員ハ之ニ賛成ス

○委員長伯爵島津忠麿 質問既ニ盡キタルヲ以テ直ニ本案ヲ表決ニ付シテ可ナルカヲ諮ヒ異議ナカリシヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵島津忠麿 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

刑事訴訟法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 島津忠麿

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 島津忠麿印

副委員長 奥山政敬印

關稅定率法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月二十二日議長ノ指名ヲ以テ關稅定率法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵 大田原一清

子爵 榎筒隆督

男爵 郷誠之助

渡正元

下條正雄

石橋謹二

鎌田榮吉

八田德三郎

堀正一

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長

下條正雄

副委員長

鎌田榮吉

會議

第一回 明治四十五年三月二十三日

出席委員

委員長

下條正雄

副委員長

鎌田榮吉

委員 子爵

大田原一清

同

子爵

榎笥隆督

同

石橋謹二

同

八田德三郎

同

堀正一

出席政府委員

大藏省關稅局長

櫻井鐵太郎

農商務省農務局長

下岡忠治

農商務省工務局長

岡實

開會 午前九時二十分

○委員長下條正雄 開會ヲ宣告ス

(參照)

關稅定率法中改正法律案

關稅定率法中左ノ通改正ス

第七條第二十三號中「種羊及種禽」ヲ「種羊、種禽、獸疫免疫血清及獸疫豫防接種液」ニ改ム
別表輸入稅表中第二百九十九號第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第四項ヲ第五項、第五項ヲ第六項
トス

四 漂白シタル平織ノ亞麻布及亞麻綿交織布(百平方メー

トルニ付十七キログラムヲ超エサルモノ)

甲 亞麻布(五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數

二十五ヲ超エ三十二ヲ超エサルモノ)

乙 亞麻綿交織布(五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯

ノ絲數二十一ヲ超エ三十ヲ超エサルモノ)

無 無
稅 稅

附則

本法ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○委員下條正雄 本案ニ對シ政府委員ノ說明アラムコトヲ求ム

○政府委員下岡忠治 關稅定率法第七條第二十三號中種羊及種禽ヲ種羊、種禽、獸疫免疫血清及獸疫豫防接種液ト改正スルノ點ニ付說明セムトス茲ニ所謂獸疫免疫血清トハ炭疽、牛疫、豕羅斯疫、豕虎列刺等ノ各種ノ病疫ニ對スルモノヲ謂ヒ又獸疫豫防接種液トハ炭疽豫防接種液、氣腫疽豫防接種液或ハ結核病豫防接種液等ノ各種ノモノヲ謂フ何レモ各種ノ獸疫ヲ豫防シ又之ヲ治療スル目的ノ爲ニ使用スル藥ナリ而シテ免疫血清ハ或試驗動物ニ一定ノ傳染病毒ヲ注射シテ免疫性ノモノト爲シ其ノ動物ノ血清ヲ取リテ之ヲ各種ノ疫獸ニ移シ之ヲ免疫セシムルモノナリ又豫防接種液ハ極メテ弱キ病毒ヲ傳染動物ニ注射シ一般ノ動物ニ輕微ナル病毒ヲ感染セシメ以テ免疫性ヲ起サシムルモノナリ元來此ノ改正ヲ爲ス必要ノ起リタル原因ハ昨年來政府力朝鮮釜山ニ牛疫血清製造所ヲ設ケ牛疫血清ヲ製造シ朝鮮ハ固ヨリ我内地ニモ之ヲ移入シテ恐ルヘキ牛疫ヲ豫防セムトセシモ其ノ牛疫血清ヲ内地ニ持來ルニ方リテハ關稅定率法ノ規定ニ從ヒ一定ノ關稅ヲ仕拂ハサルヘカラス斯ノ如キハ甚面倒ナルノミナラス種種ナル煩雜ノ手續ヲ要スルカ

故ニ之ヲ無稅ト爲シ移入ノ手續ヲ簡易ニシ以テ獸畜ノ衛生ヲ完カラシムルヲ期スルニ在リ是レ政府カ本案ヲ提出シタル所以ナリ

○政府委員櫻井鐵太郎 關稅定率法輸入稅表中ノ改正ニ付說明セムニ本案ニ規定スル亞麻布及亞麻綿交織布ハ該輸入稅表第二百九十九號第四項ノ乙丙ノ中ニ包含セラレ一定ノ關稅ヲ課セラルルヲ以テ之ヲ乙丙ヨリ引拔キ無稅ト爲サムトス從來ハ上記ノ亞麻布等ハ加工品ノ原料トシテ取扱ヒ之ニ輸入稅ヲ課セス其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ取り一箇年內ニ於テ加工シ見本トシテ提出シ置キタル拔絲細工品ト爲シテ之ヲ輸出スルトキハ其ノ擔保ヲ返付スルコトト爲シ居レリ而シテ「パテンレース」ノ製造ハ近年我國ニ於テ頗隆盛トナリ之カ原料トシテ加工ノ爲ニ輸入スル物品ノ價格百萬圓ナルニ對シ加工ノ上再輸出スルモノハ約二百五十萬圓ノ價格トナリ差引百五十萬圓ノ工賃ヲ得ル次第ナリ而シテ之カ加工ニ從事スル職工ハ橫濱市ヲ主トシテ東京府靜岡縣ニ多ク其ノ他東海道ノ諸縣ハ勿論北陸道ニ於テモ新潟其ノ他ノ數縣ニ互リテ數十萬ヲ算シ其ノ大部分ハ工女ノ占ムル所ナリ元來此ノ加工業ハ明治二十四年ノ頃ニ始リ爾來漸次發達シ來リ今ヤ廣ク殆全國ニ互リテ行ハレ多數ノ男女之カ爲ニ職ヲ得ルノ實況ナリ而シテ原料タル亞麻布ハ英國ヨリ之ヲ輸入シ加工品ハ主トシテ亞米利加ニ輸出セラレ今日ノ輸出品中重要ナルモノノ一ヲ

占ム然レトモ亞米利加ニ對シテ此等ノ加工品ヲ輸出スルハ我國ノ獨占スル所ニアラス我國ハ工賃ノ廉價ナルカ爲ニ唯多少有利ノ地位ニ在ルニ過キス換言スレハ僅少ノ差益ヲ以テ競争ニ勝テ得ト謂フニ過キス故ニ斯業ニ對シテハ十分考慮ヲ盡シ保護ヲ加フルニアラサレハ將來外國ヨリ壓倒セララルノ虞アリ是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

○委員長下條正雄 筆記ノ中止ヲ命ス

(筆記中止)

○委員長下條正雄 筆記ノ開始ヲ命ス

○政府委員櫻井鐵太郎 今日ニ於ケル我國ノ拔絲業ハ漸次進歩シ前述ノ如ク加工品ヲ輸出シテ莫大ナル工賃ヲ得ヘキモノナルカ故ニ此ノ事業ニ對シテハ益發展ノ方法ヲ講セサルヘカラス然レトモ又一方ニ於テハ内地ノ産業ノ状態ヲモ考慮セサルヘカラサルカ故ニ全然日本ニ於テ產出スル能ハサル品物ノミヲ引拔キ茲ニ無稅トスル次第ナリ故ニ現時拔絲細工等ノ加工ヲ爲ス爲外國ヨリ輸入シ使用セララル所謂「リチン」及麻綿ノ混織物ノ如キハ其ノ一部分ハ内地ニ於テ產出セラルルカ故ニ此ノ案ニ於テハ此等ノ物ヲ無稅ト爲ササルナリ之ニ反シテ本案ニ掲ケタル物品ハ其ノ殆全部ハ内地ニ於テ生產セララルモノニアラサルカ故ニ之ヲ無稅トスルモ内地ノ織物業者

ニ惡影響ヲ與フルカ如キコトナシ而シテ本案ニ對シ衆議院ニ於テ修正ヲ加ヘラレタルモ政府ハ之ニ同意ヲ表スルモノナリ

○委員石橋謹二 衆議院ノ加ヘタル修正ヲ認容スルモ政府ハ拔絲工業保護ノ目的ヲ達シ得ルモノト信スルカ

○政府委員櫻井鐵太郎 然リ衆議院ニ於テ修正セラレタルカ如クスルモ決シテ差支ナシト信ス

○委員石橋謹二 所謂免疫血清トハ獸疫ノミニ使用スルモノナルカ或ハ又人間ニ使用スルモノヲモ包含スルカ

○政府委員櫻井鐵太郎 其ノ事ニ關シテハ農商務省事務所管政府委員ヨリ説明スヘキモノナルモ本員ノ知レル範圍ヲ述フレハ此ノ改正案ニ所謂免疫血清ナルモノハ獸疫ニ對シテノミ使用セララルモノナリ而シテ之ヲ製造スルハ政府ニシテ之ヲ内地ニ輸入スルモノモ亦政府自身ナリ而シテ此ノ血清ハ痘苗ノ如ク一般ノ藥種店等ニ於テ販賣スルヲ得ルモノニアラサルカ故ニ之ヲ無稅トスルモ決シテ弊害ヲ生スルコトナシ

○委員下條正雄 政府ハ衆議院ノ修正ニ同意ヲ爲スモ格別ノ差支ナシト考ヘララルノ意カ

○政府委員櫻井鐵太郎 然リ漂白シタル平織ノ亞麻布及亞麻綿交織布百平方「メートル」ニ付四十

「キログラム」ヲ超エサルモノトアルヲ十七「キログラム」ヲ超エサルモノト爲スコトハ決シテ差支ナシ蓋五「ミリメートル」平方内ニ於ケル經緯ノ絲數三十五乃至二十ノモノニテハ四十「キログラム」ニ達スルモノナク即重量ハ自ラ絲數ニ依リテ制限セラルルヲ以テ此ノ點ノ改正ハ至極適當ナリト認ム又第四號ヲ甲乙ニ分チ甲ノ絲數ノ最多限三十五ヲ超エサルモノトアルヲ三十二ヲ超エサルモノトシ乙ノ絲數ノ最少限二十四トアルヲ二十一ト修正スルハ事實ニ於テ適當ナリトノコトナレハ政府ハ之ニ同意ヲ爲シタリ

○委員鎌田榮吉 北米合衆國ニ於テ市價ニ課稅ヲ爲スト謂フハ如何ナルコトヲ謂フカ

○政府委員櫻井鐵太郎 結局現實ニ賣買ノ行ハレタル日本ノ市場價格其ノモノヲ標準トシテ課稅ヲ爲スト謂フニ外ナラサルナリ

○委員鎌田榮吉 戻稅ノ方法ヲ採リ輸入ノ際ニ提供シタル擔保ヲ返付スルトキハ結局無稅ト同一トナリ從テ其ノ課稅ナキ原價ヲ抽出スルヲ得ルニアラスヤ

○政府委員櫻井鐵太郎 然レトモ別紙參考書ニ示スカ如ク北米合衆國へ輸出スルニハ仕入書ニ現實ノ價格ヲ記載シ其ノ取引ヲ爲シタル市場ニ駐在スル米國領事ノ裏書ヲ以テ證明セラルルヲ要スルカ故ニ單純ニ無稅トスル場合トハ自ラ差異ヲ生ス

○委員下條正雄 從來亞麻布等ヲ輸入セル場合ニ稅關ニ於テ擔保ヲ取り之ヲ加工シテ更ニ外國ニ輸出スルトキ其ノ擔保ノ返付ヲ爲スハ純然タル戻稅ニアラサルヘシ

○政府委員櫻井鐵太郎 然リ純然タル戻稅ニアラス唯加工品ヲ輸出スル場合ニ原料輸入ノ際提供セシメタル擔保ヲ返付スルニ過キサルモ現實ニ擔保ヲ取ル以上ハ全ク無稅ノモノトハ異ル結果ヲ來スハ已ムヲ得サルナリ尙此ノ際一言ヲ要スルハ本案ノ如ク無稅トスルトキハ從來提供セシメタル擔保ヲ一般民間ニ於テ使用スルヲ得テ其ノ利ヲ損スルノ虞ナク當局者ノ手數ヲモ省キ且輸出業者ノ便宜ヲ増加スルモノト信セラルルカ故ニ旁以テ本案ヲ提出シタル次第ナリ

○委員子爵大田原一清 若本案カ通過ストセハ政府ノ豫想スル如ク織物業者ヲ保護シ之カ獎勵ノ目的ヲ達セラルルモノナルヤ

○政府委員櫻井鐵太郎 本案ハ織物業者ノ爲ニ大ナル便宜ヲ與フルコトニハナラサルヘキモ今回ノ亞米利加合衆國ノ處置ニ對シ從來ノ儘ニ放置スルトキハ或ハ折角盛大トナリツツアル拔絲輸出業ヲシテ萎微セシムルノ虞アルカ爲ニ今之ヲ豫防セムト欲スルニ外ナラス然レトモ其ノ結果ニ於テ織物業者モ固ヨリ便宜ヲ得ルコトナルヘシ

○政府委員櫻井鐵太郎 終ニ蒞ミ一言附加スヘキハ從來有稅ノモノヲ無稅トスルトキハ關稅ノ收

入ニ影響ヲ及ホスコトナキヤト考ヘラルルノ一事ナリ本案ノ規定ニ係ル亞麻布亞麻綿交織布ハ從來ト雖單ニ輸入税金ニ相當スル擔保ヲ供セシメタルニ過キスシテ課稅ヲ爲シタルニアラサルカ故ニ關稅ノ收入ニ及ホス影響ハ全クナキモノナリ

○委員長下條正雄 本案ニ對シ質問ナケレハ討論ニ移ルヘキ旨ヲ宣告ス

○委員長下條正雄 本案ニ對シ意見ノ陳述ナキヲ以テ之ヲ可決シテハ如何ト諮ル

異議ナシ

○委員長下條正雄 散會ヲ命ス

散會 午前十時三十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

關稅定率法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十三日

右特別委員長

下條正雄

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長

下條正雄印

副委員長

鎌田榮吉印

擔保附社債信託法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○明治四十五年三月二十三日議長ノ指名ヲ以テ擔保附社債信託法中改正法律案特別委員ヲ選定スル
コト左ノ如シ

- | | |
|----|-------|
| 伯爵 | 柳澤保惠 |
| 子爵 | 山口弘達 |
| 子爵 | 牧野忠篤 |
| 子爵 | 前田利定 |
| 男爵 | 高木兼寛 |
| 男爵 | 東郷安 |
| | 原保太郎 |
| | 石渡敏一 |
| | 木村誓太郎 |

委員長及副委員長選舉

○明治四十五年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

| | | |
|------|----|------|
| 委員長 | 男爵 | 高木兼寬 |
| 副委員長 | | 石渡敏一 |

第一回 明治四十五年三月二十三日

會議

出席委員

| | | | | | |
|-----|----|------|------|------|-------|
| 委員長 | 男爵 | 高木兼寬 | 副委員長 | 石渡敏一 | |
| 委員 | 子爵 | 山口弘達 | 同 | 子爵 | 牧野忠篤 |
| 同 | 子爵 | 前田利定 | 同 | 男爵 | 東郷安 |
| 同 | | 原保太郎 | 同 | | 木村誓太郎 |

出席政府委員

| | |
|---------|-------|
| 鐵道院理事 | 山之内一次 |
| 大藏省理財局長 | 勝田主計 |
| 司法省民事局長 | 齋藤十一郎 |

開會 午前十一時三十五分

○委員長男爵高木兼寬 開會ヲ宣告ス

(參照)

擔保附社債信託法中改正法律案

擔保附社債信託法中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

九 輕便鐵道抵當

○委員石渡敏一 政府ハ實際上ノ必要アリト認メテ本案ヲ提出セルカ

○政府委員山之内一次 然リ輕便鐵道ヲ抵當トスル擔保附社債ヲ發行セムコトヲ希望スル者アリト雖擔保附社債信託法中ニ之ヲ認ムルノ規定ヲ闕ケル爲茲ニ本改正案ヲ提出セシナリ

○委員石渡敏一 輕便鐵道ト軌道トノ區別ハ主務官廳カ法律ニ依リ設立ノ許可ヲ與フル際ニ於ケル形式上ノ差異ニ依ルカ

○政府委員山之内一次 輕便鐵道ト軌道トハ法律上自ラ區別アリテ出願者官廳共ニ各其ノ法律ニ依ルモノナリ軌道ハ道路上ニ敷設セラレ從テ市街地及其ノ近傍ニ於テ營業ヲ爲セトモ輕便鐵道

ハ然ラスシテ専用ノ線路ヲ有ス而シテ鐵道ハ通常ノ鐵道ト輕便鐵道トノ二ニ區別セラル通常ノ鐵道トハ設備完全ナルモノヲ稱シ輕便鐵道トハ設備ノ比較的ニ簡易ナルモノヲ謂フ

○委員石渡敏一 鐵道ハ以上ノ二種ノミナルヤ

○政府委員山之内一次 事業家カ其ノ事業ヲ經營スル爲専用ノ鐵道ヲ敷設スルコトアリ併ナカラ此ノ種ノ鐵道ハ一般運送用ニ供スルモノニアラス

○委員子爵前田利定 政府委員ノ説明ニ依リ本案ノ誠ニ至當ナルモノタルコトヲ解シ得タリ尙他ノ法律中ニハ此ノ如キ改正ヲ必要トスルモノナキヤ

○政府委員山之内一次 今日ニ於テハ輕便鐵道法ヲ改正スルノ必要ヲ認メス

○委員子爵前田利定 擔保附社債信託法中ニ輕便鐵道抵當ノ文字ヲ加入スルノ必要アルカ如ク其ノ他ノ法律中ニモ輕便鐵道ナル文字ヲ挿入スルノ必要ナキヤ

○政府委員山之内一次 其ノ必要ナシ

○委員石渡敏一 質問ノ順序顛倒シタレトモ本案提出ノ理由ヲ説明セラレムコトヲ望ム

○政府委員山之内一次 本日本會議ニ於テ橋本大藏次官ノ説明セシ如ク明治四十三年法律第五十七號ヲ以テ輕便鐵道法發布セラレ新ニ輕便鐵道ナル鐵道ノ一種ヲ認メラレタリ然ルニ擔保附社

債信託法ハ明治三十八年法律第五十二號ヲ以テ公布セラレ輕便鐵道法發布以前制定セラレシカ故ニ同法第四條ニハ社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ノ中ニ私設鐵道並軌道ノ抵當ヲ掲クルニモ係ラス輕便鐵道抵當ニ關シテハ何等規定セラルル所ナシ故ニ輕便鐵道ノ經營者ハ輕便鐵道ヲ抵當トシテ擔保附社債ヲ發行スルノ特權ヲ有セス已ムヲ得ス一時借入金等ノ名義ヲ以テ融通ヲ爲スノ現狀ニ在リ當局者ニ向ヒテ其ノ不便ノ甚シキコトヲ述ヘ以テ之カ改正ヲ希望セルニ因リテ本案ヲ提出シタルナリ

○委員男爵高木兼寛 輕便鐵道法ニ依リテ擔保附社債ヲ發行スルコトヲ得サルヤ

○政府委員山之内一次 然リ本案ノ規定ヲ必要トス

○委員男爵高木兼寛 擔保附社債信託法ハ輕便鐵道法ノ發布以前ニ制定セラレタルカ故ニ輕便鐵道ニ關スル規定ヲ闕ケルモノナリヤ

○政府委員山之内一次 然リ

○委員長男爵高木兼寛 質問既ニ盡キタルカ如シ直ニ本案ヲ表決ニ付シテ異議ナキヤヲ諮フ
異議ナシ

○委員長男爵高木兼寛 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長男爵高木兼寛 散會ヲ命ス

散會 午前十二時

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

擔保附社債信託法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月二十三日

右特別委員長

男爵 高木 兼 寛

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 男爵 高木 兼 寛印

副委員長 石渡 敏 一印

大正元年十一月十一日印刷
大正元年十一月十四日發行

貴族院事務局

印刷者 中村 彌三郎

東京市麴町區内幸町一丁目四番地

印刷所 三生 舍

東京市麴町區内幸町一丁目四番地

